

研究紀要

# 群 翔

第 2 8 号



平成 2 9 年 3 月

広島県立黒瀬高等学校

# 目 次

|               |                |            |
|---------------|----------------|------------|
| はじめに          | 校長             | 馬屋原 幸孝・・・1 |
| 第1章           |                |            |
| 研究授業の部        |                |            |
| 公開研究授業指導演     |                |            |
| 数学科           | 数学A            | 宮田 晴加・・・3  |
|               | 数学I            | 中島 陽・・・9   |
| 国語科学習指導演      | 現代文B           | 峠 千代・・・17  |
|               | 国語表現           | 増田 健次・・・18 |
|               | 現代文B           | 太田 智子・・・19 |
| 地理歴史，公民科学習指導演 | 現代社会           | 浅藤 直幸・・・20 |
|               | 現代社会           | 武知 秀樹・・・21 |
| 数学科学習指導演      | 数学I            | 笹方 慎一・・・22 |
|               | 数学II           | 森 真弓・・・23  |
| 理科学習指導演       | 化学演習           | 久保 哲夫・・・24 |
|               | 生物基礎           | 濱生 創・・・25  |
|               | 物理基礎           | 長井 優典・・・26 |
| 保健体育科学習指導演    | 体育             | 石井 直仁・・・27 |
|               | 体育             | 大林 千代・・・28 |
|               | 保健             | 三村 勝彦・・・29 |
| 芸術科学習指導演      | 音楽II           | 藤原 美穂・・・30 |
|               | 美術I            | 木村 哲治・・・31 |
| 外国語科学習指導演     | コミュニケーション英語I   | 伊藤 仁・・・32  |
|               | コミュニケーション英語II  | 旨行 辰夫・・・33 |
|               | コミュニケーション英語III | 神笠 薫子・・・34 |
|               | コミュニケーション英語I   | 寺下 美穂・・・35 |

|          |             |                  |
|----------|-------------|------------------|
| 福祉科学習指導案 | 生活支援技術      | 武智 朋子 . . . 3 6  |
|          | 成人看護        | 安吉 千穂 . . . 3 7  |
|          | 遊びと保育       | 池上 千華 . . . 3 8  |
|          | 生活支援技術      | 黒瀬 香帆里 . . . 3 9 |
|          | コミュニケーション技術 | 渡邊 大記 . . . 4 0  |
|          | 介護福祉基礎      | 段 美幸 . . . 4 1   |
|          | 生活支援技術      | 重本 恵 . . . 4 2   |

|          |     |           |
|----------|-----|-----------|
| 授業研究のまとめ | 教務部 | . . . 4 3 |
|----------|-----|-----------|

## 第2章

### 研究報告の部

|                           |       |           |
|---------------------------|-------|-----------|
| 平成 28 年度生徒指導実践指定校としての取り組み | 生徒指導部 | . . . 6 0 |
| 海外姉妹校提携（アルマス高校訪問）         | 伊藤 仁  | . . . 6 2 |

|      |     |           |
|------|-----|-----------|
| あとがき | 総務部 | . . . 6 4 |
|------|-----|-----------|

## はじめに

平成 28 年 12 月 21 日、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について」の答申が出された。いわゆる次期学習指導要領改訂の基本的な方向性が示されたこととなります。

その方向性の特徴をみると、

教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現  
「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」の視点）

何が身に付いたか - 学習評価の充実 - の 3 点にあると考えます。

この特徴は、既に広島県が 2 年前に策定した広島版「学びの変革」アクション・プラン（以下「アクション・プラン」とする）に示された方向性とほぼ一致しており、広島県では先取りした形で、各学校がそれぞれの生徒の実態や地域性を踏まえた取組を実施し、その実践例を少しずつ積み重ねていることとなります。

黒瀬高校では、今年度も生徒指導実践指定校の指定を受ける中、生徒像を「志と目標を高く持ち、主体的に学び、自ら行動する生徒」とし、「組織的で揺るぎのない、心を育てる生徒指導の実践」を行ってきました。その結果、国立大学に 1 名、公立大学に 1 名の合格者、広島国際大学に 16 名の進学者を、これまでにトライをしたことがない企業への合格者を輩出する等、近年の取組の成果が着実にあがった年であったと考えます。

併せて、アクション・プランに基づいて、本校の生徒に育てたい資質・能力の内、教科で身に付けさせたいスキルとして 4 項目、「思考力・判断力・表現力」「情報収集・活用能力」「コミュニケーション能力」「課題発見・解決能力」、そのベースとなる意欲・態度・価値観・倫理観として「主体性・リーダーシップ」「責任感」「協調性」「ストレスコントロール」として整理し、これらを育成するため、平成 28 年度の授業研究テーマを「生徒が主体的に学ぶための授業の創造」として、各教科ごとの仮説を設定し、授業改善に取り組んできました。（p 43 ~ p 59）

例えば、数学科では、『課題を解決する場面において、協働的に課題を解決する時間を設定することによって、課題を解決する過程やその理由を説明する力が身に付くであろう』とし、基礎的な知識・技能を獲得させながら、数学的な見方・考え方を駆使して解決できるような課題を設定し、それを協働的に解決していく授業内容及び授業方法を工夫・改善して 1 年間取り組んでいくこととしました。

その成果を、各教科の仮説を検証する形で本研究紀要としてまとめました。各教科で設定した目標に対して、まだ研究途上ではありますが、今年度の取組の一端をここに整理するとともに、その課題を明らかにし、来年度の取組につなげていきたいと考えています。多くの方にご高覧いただき、ご指導・ご助言をいただけたら幸いです。

平成 29 年 3 月 研究紀要発行に寄せて  
校長 馬屋原 幸孝

# 平成 28 年度 黒瀬高校版「学びの变革」授業モデル

平成 28 年 11 月 14 日版

各教科・科目の学習が総合的な学習の時間にリンクする必要がある

【A】

<育てたい生徒像>  
「志と目標を高く持ち、主体的に学び、自ら行動する生徒」

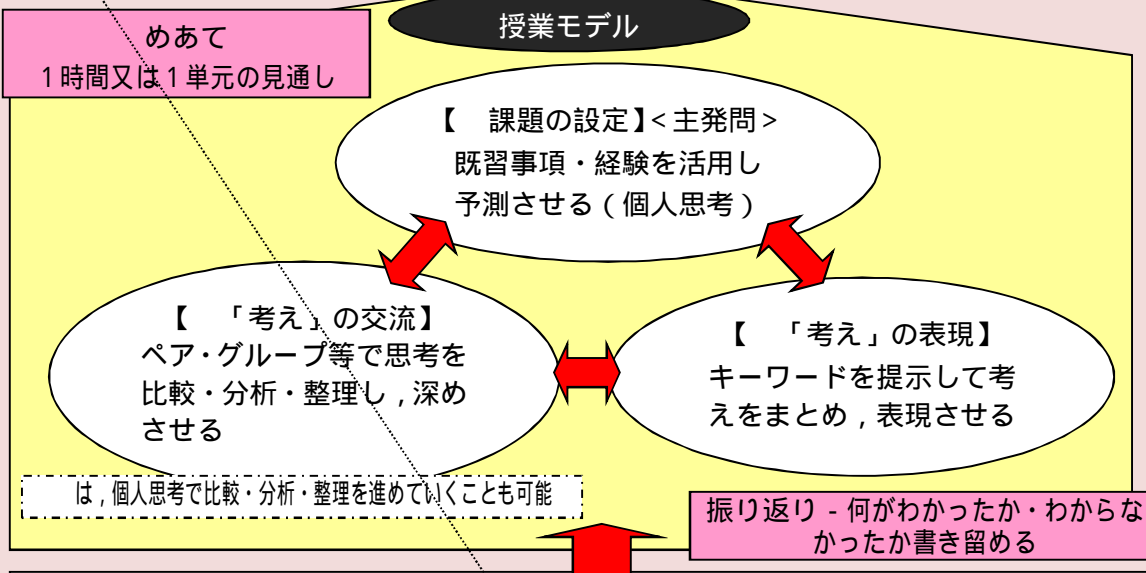
<テーマ>  
生徒が主体的に学ぶための授業の創造  
<各教科の仮説> ( )

課題の設定  
実生活で活用が可能な課題  
既習事項を生かせる課題  
教科特有の課題 等

「考え」の交流  
主発問へ至る補助発問を予め組み立てる  
補助発問に対して最善解ができるよう教材や資料を提示する  
最善解を集団思考で練る  
グループ等構成員の発言を傾聴した上で、比較・分析・批判をし、グループ等のまとめを行う（多様な学習形態）  
交流の視点・方法等を明確にすること（時間、理由付け、役割分担等）

「考え」の表現  
キーワードを手掛かりに表現をさせる。  
表現は「話す」「書く」を基本とする  
相手意識をもって行う  
(背景や理由付けを行い説得力のあるものにする)  
ループリックによる評価を行う（形成的評価）

ICTの活用  
生徒の興味・関心を高める素材を提示  
まとめた考えを即時に提示 ppt による発表 等  
思考ツールの活用  
既習事項の整理に活用  
比較・分析等に活用  
思考ツールで整理し、まとめたものを提示



<家庭学習> ノート等の指導を通して  
【復習】ノートやワークシートを振り返り、自分の考えの変化をたどる指導  
【予習】次時までには新たな情報を収集し、整理するよう指導（ドリル学習も含む）

【B】

<総合的な学習の時間 - 養訓>  
課題発見・解決学習（自己の在り方を探究する）

<部活動・ボランティア活動（黒高レジャー）>  
自主的体験活動の積み重ね

<特別活動>  
学校行事 生徒会活動 ホームルーム活動

<キャリア教育>  
基礎的・汎用的能力  
人間関係形成・社会関係形成能力  
自己理解・自己管理能力  
課題対応能力  
キャリアプランニング能力

<生徒指導の三機能>  
自己決定 自己存在感 共感的人間関係

<人権教育・道徳教育>  
人間としてのより良い在り方・生き方の自覚

# 第 1 章

## 研究授業の部

1. 日時・場所 平成 29 年 2 月 1 日 ( 水 ) 1 時間目
2. 学年・学級 第 1 学年 1・2 組 標準クラス 23 名 ( 男子 14 名 女子 9 名 )  
1・2 組 基礎クラス 18 名 ( 男子 9 名 女子 9 名 )
3. 研究テーマ ( 教職経験者 6 年目研修 数学科 )  
生徒の「主体的な学び」を促す指導方法の工夫 ~ グループ活動を通して ~
4. 科目 数学 A
5. 単元名 「場合の数と確率」

6. 単元について

( 1 ) 単元観

中学校第 2 学年では、樹形図などを利用して起こりうるすべての場合を列挙することができる程度の事象について、起こりうる場合を順序よく整理し、数え上げることによって、確率を求めることを扱っている。

高等学校では、数え上げの原則や、順列・組合せ及びその総数の求め方について理解させるとともに、それらを具体的な場面に活用できるようにする。また、身近な事象を基にして、不確定な事象の起こる程度を「数」を用いて表現することについての理解を深めるとともに、事象を数学的に考察する能力を養い、確率を活用する能力を伸ばしていく。

( 2 ) 生徒観

1 月上旬に中学校第 2 学年で学習した場合の数の内容で標準クラスの生徒に小テストを行った。

① 1 枚の 10 円硬貨と 1 枚の 100 円硬貨を同時に投げる。裏表の出方は何通りありますか。

② 大小 2 個のさいころを投げる。次の場合は何通りありますか。

(1) 目の和が 6 になる

(2) 目の積が奇数になる

③ A, B, C, D の 4 人から 2 人の委員を選ぶ。選び方は何通りありますか。

①では 18 名もの生徒が樹形図や列挙を用いて数え上げていた。しかし、2 通りや 3 通りといった誤答が半数の 9 名であった。

②の大小のさいころの目についての問題でも樹形図や表を用いて考えた生徒が多かった。しかし、2 個のさいころの区別や問題文の読み取り ( 目の和が 6, 目の積が奇数 ) といったに課題があり、正答は半数に満たなかった。

3]では正答が14名と半数を超えたが、A Bの選び方とB Aの選び方を区別して12通りとしているものが誤答として目立った。

また、確率と勘違いして求めていた生徒が1名いた。

### (3) 指導観

小テストから、樹形図を用いて順序良く整理して数え上げようとしている生徒が多くいたものの、問題の意味を理解して条件に合った樹形図をかくことに課題がある。本時では、ワークシートを用いて授業を進める。それぞれの小問(1)をクラス全体で扱った後、(2)を類題として考えさせる。(2)は(1)に比べてやや複雑になっている。ペアで相談をしながら問題文に合うような樹形図をかき、場合の数を求めていくようにさせる。

## 7. 単元の目標

場合の数を求める時の基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。

## 8. 単元の評価規準

| ア. 関心・意欲・態度   | イ. 数学的な見方や考え方                               | ウ. 数学的な技能                               | エ. 知識・理解  |
|---|---|---|---|
| 有限集合の要素の個数について調べようとする。                              | 有限集合の要素の個数に関して成り立つ関係式を集合の図を用いて考察することができる。   | 和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。                | 関係式 $n(A \cup B) = n(A) + n(B) - n(A \cap B)$ や $n(\bar{A}) = n(U) - n(A)$ の関係式を理解している。 |
| ものの個数を数える時、もれがなく重複のないようにするにはどのようにすることが大切かを考察しようとする。 | 場合の数をもれなく、重複することなく数えるのに、樹形図を用いる方法があることに気付く。 | 場合の数を求める時、和の法則や積の法則を有効に活用することができる。      | 具体的な例を通して「和の法則」「積の法則」を理解している。   |
| いくつかのものの中から、その一部またはすべてを取り出して並べるとき、その並べ方の総数を考えようとする。 | 和の法則や積の法則を利用して、いくつかのものの並べ方の総数を求めることに気付く。    | 順列の総数を表す記号 $nPr$ を用いて、場合の数を求めることができる。   | 具体的な例を通して、場合の数の求め方を理解している。  |
| 順列を利用して、いろいろな場合の数を求めようとする。                          | 1列に並べる以外にも、円形に並べたり、重複を許したりする並べ方があることに気付く。   | 1列に並ぶ順列と円形に並ぶ順列との関係から円順列の総数を導き出すことができる。 | 円順列・重複順列の総数を求める方法を理解している。   |
| 並べる順序は問題にしないで、取り出す要素                                | 組合せと順列の関係をもとにすると、組合せの総                      | 組合せの総数を表す記号 $nCr$ を用いて、場                | 組合せの考え方を利用して、同じもの   |



|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| の組の作り方について考えようとする。                        | 数を求めることに気付く。                                    | 合の数を求めることができる。   | を含む順列など、いろいろな場合の数を求める方法を理解している。   |
| ある事柄の起こりやすさの程度を数値で表そうとする。                 | 起こりうる場合の数を計算することで確率を求めることに気付く。                  | 全事象，根元事象を集合を用いて表すことができる。   | 全事象U，事象Aの根元事象の個数をそれぞれ $n(U)$ ， $n(A)$ とする。それらの個数を正しく求めることを理解している。                             |
| 具体例を通じて「同様に確からしい」とはどんなことを指しているかを考察しようとする。 | ある試行において，各根元事象が同様に確からしいときについて，1つの事象が起こる確率を考察する。 | ある試行において，起こり得るすべての結果がN個あり，各結果からなる根元事象は同様に確からしいとするとき，事象Aがa個の根元事象からなるとき，事象Aの確率を定義することができることに気付く。 | 事象Aの起こる確率は $P(A) = \frac{n(A)}{n(U)}$ で与えられることを理解している。  |
| いろいろな事象の確率について，基本的な性質を調べようとする。            | 積事象，和事象，排反事象，余事象の確率について考察する。                    | 具体例を通じて，積事象，和事象，排反事象，余事象の確率を求めることができる。   | 確率の加法定理，余事象の確率について理解している。   |
| 2つ(以上)の試行における事象の確率について調べようとする。            | 2つ(以上)の試行の結果が互いに影響しない場合の確率を考察する。                | 2つの独立な試行S，Tにおいて，Sでは事象Aが起こり，Tでは事象Bが起こるといふ事象Cの起こる確率を求めることができる。                                   | 2つの独立な試行S，Tにおいて，Sでは事象Aが起こり，Tでは事象Bが起こるといふ事象Cの起こる確率を $P(C) = P(A) \times P(B)$ で与えられることを理解している。 |
| 同じ条件のもとで1つの試行を繰り返す時の確率について調べようとする。        | 反復試行の確率を考察する。                                   | 反復試行の確率を求める時，ある事象が起こる場合の数を求めることができる。   | 1回の試行において事象Aが起こる確率をpとする。この試行をn回繰り返す時，事象Aがr回だけ起こ   |

|  |              |                          |   |
|--|--------------|--------------------------|---|
|  |              |                          | る確率が $nCr p^r (1-p)^{n-r}$ で求めることができることを理解している。 |
| 条件付き確率(前の試行結果が後に影響を与える)について独立な試行と比較するなどして、調べようとする。 | 条件付き確率を考察する。 | 具体例を通して条件付き確率を求めることができる。 | 根元事象の個数に着目して、条件付き確率を求めることができることを理解している。         |

### 9. 指導と評価の計画(全12時間)

| 次 | 学習内容(時数)                    | 評価 |   |   |   |                | 評価規準                  | 評価方法 |
|---|-----------------------------|----|---|---|---|----------------|-----------------------|------|
|   |                             | 関  | 考 | 技 | 知 |                |                       |      |
| 1 | 集合と要素の個数<br>(2)             |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表                    |      |
| 2 | 数えあげの原則<br>(2)<br>本時はその1時間目 |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表<br>ワークシートの提出       |      |
| 3 | 順列(4)                       |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表, 小テスト<br>ワークシートの提出 |      |
| 4 | 組合せ(4)                      |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表, 小テスト<br>ワークシートの提出 |      |
| 5 | 事象と確率                       |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表<br>ワークシートの提出       |      |
| 6 | 確率の基本性質                     |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表, 小テスト<br>ワークシートの提出 |      |
| 7 | 独立な試行の確率                    |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表, 小テスト<br>ワークシートの提出 |      |
| 8 | 反復試行の確率                     |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表, 小テスト<br>ワークシートの提出 |      |
| 9 | 条件付き確率                      |    |   |   |   | ア- イ-<br>ウ- エ- | 発表, 小テスト<br>ワークシートの提出 |      |

本時の展開

(1) 本時の目標

場合の数をもれなく、重複なく数え上げるために、樹形図や表を用いて考えを表現することができる。

(2) 観点別評価規準

- ・条件を満たすものの個数を数える時、もれがなく重複のないようにするにはどのようにすることが大切かを考察しようとしている(ア- 関心・意欲・態度)
- ・場合の数をもれなく、重複することなく数えるのに、樹形図を用いる方法があることに気付き、書いた樹形図を読み取ることができる。(イ- 数学的な見方や考え方)

(3) 使用教材・準備物

教科書、ノート、ワークシート、数字カード、アルファベットカード

(4) 学習の展開

| 学習活動<br>(○発問, 予想される生徒の反応)  | 指導上の留意事項( )<br>「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て  | 評価規準〔観点〕<br>(評価方法)  |
|--|---|---------------------|
| <p>1. めあての提示(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの①(1)を取り組む。</li> <li>何通りありましたか。どのようにして数え上げましたか。</li> <li>5通り, 6通り, 7通り</li> <li>・樹形図を利用した</li> <li>・表をかいた</li> <li>・列挙した</li> <li>・5通りや7通りは数え上げるのにもれや重複がある。順序良く整理して数え上げるには樹形図が有効な手立てであることを理解する。</li> </ul> | <p>ワークシートを配布する。</p> <p>樹形図を利用した生徒, 表をかいた生徒それぞれを指名し, 板書させる。各々の考え方と照らし合わせて確認させる。</p> <p>樹形図の読み取り方を説明し, すべての場合を書きだす。</p> | <p>・机間指導による行動観察</p> |
| <p>本時のめあて: 樹形図などを用いて, もれなく, 重複せずに書き出そう</p>   |   |                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のルーブリックを確認する。</li> <li>・①の(2)を取り組む。クラス全体で樹形図, 書き出した結果を確認をする。</li> </ul> <p>2. 演習 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・②の(1)と③の(1)を説明を聞く。</li> </ul>   | <p>問題文を読み, 具体的にどのようなことが起こるか, 発問をしながら進める。</p> <p>③の(1)の思考を促すためにカードを用いて</p>   |                     |

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p>・それぞれの(2)を取り組む。<br/>         ・ペアで相談し樹形図，及び読み取りをして場合の数を書き出す。<br/>         ・発表をする。</p> <p>3．演習（20分）<br/>         ・<b>4</b>の(1)と<b>5</b>の(1)を説明を聞く。</p> <p>・それぞれの(2)を取り組む。<br/>         ・ペアで相談し樹形図，及び読み取りをして場合の数を書き出す。<br/>         ・発表をする。</p> <p>4．本時のまとめと振り返り(5分)<br/>         ・与えられた条件によって，工夫して樹形図を書く必要がある。<br/>         ・場合の数をもれなく，重複なく求めるために樹形図は重要な方法である。</p> | <p>説明する。</p> <p>条件を考えながら樹形図を書く方法と，すべて書き出して，条件を満たさないものに×をつけていく方法の2通りを示す。</p> <p>ワークシートを提出させる</p> | <p>・ワークシートへの取り組み</p> <p>・発表</p> <p>・ワークシートへの取り組み</p> <p>・発表</p> |
|---|---|---|

研究主題：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

教科仮説：課題を解決する場面において、協働的に課題を解決する時間を設定することによって、課題を解決する過程やその理由を説明する力が身に付くであろう。

1 日時・場所 平成 28 年 9 月 27 日 ( 火 ) 第 5 時限 視聴覚教室

2 学年・学級 第 1 学年 普通科 1・2 組 発展クラス 39 名

3 単元名 二次関数

4 単元について

( 1 ) 単元観

中学校では、具体的な事象の考察を通して、比例・反比例、一次関数及び関数  $y = ax^2$  を扱い、それらを具体的な問題の解決に活用することを扱っている。二次関数は、高等学校で学習する関数概念の基礎となるものであり、グラフを用いて事象や問題を考えることの有用性を感じることができる単元である。ここでは、具体的な事象と関連付けて簡単な関数を取り上げるとともに、二次関数  $y = ax^2 + bx + c$  を扱い、関数概念の理解を深め、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識できるようにする。また、二次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることや、二次不等式の解を求めることができるようにする。

( 2 ) 生徒観

本クラスは、普通科 2 クラスを習熟度別授業展開で発展、標準、基礎の 3 クラスに分けたうちの発展クラスである。発展クラスではあるが、中学校で学習した数学の知識や計算能力に課題を抱えている生徒が多く、6 月に受験した実力診断テストにおいても、次のような結果であった。

| GTZ | B3  | C1  | C2  | C3  | D1   | D2  | D3  |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 人数  | 1 名 | 3 名 | 5 名 | 8 名 | 12 名 | 7 名 | 3 名 |

特に、本単元とも関わりが深いグラフについて苦手意識を抱えている生徒が多く、関数  $y = f(x)$  において、 $x$  の値とそれに対応する  $y$  の値の組  $(x, y)$  を座標とする点全体からなる図形を、関数  $y = f(x)$  のグラフであるという関数の式とグラフの関係に対する理解度が低い。

実際に、本授業に関わりの深い小テストを実施した結果が以下である。

| 問題   | 正答率 |
|--|-----|
| 二次関数 $y = x^2 - 2x - 2$ ( $-2 \leq x \leq 3$ ) の最大値と最小値を求めよ。また、そのときの $x$ の値を求めよ。 | 62% |

最も多い間違いは、平方完成までは合っているが、定義域を考慮して式をグラフにかくところでの間違いである。次いで多いのが、定義域の両端  $x = -2$  ,  $x = 3$  を代入して大きい値を最大値、小

さい値を最小値としている間違いである。

### (3) 指導観

指導に当たっては、まずは関数の式とグラフの関係に対する理解を深めてもらうため、グラフをかく際に、 $x$ と $y$ の対応表を作成し、対応表を基に一つ一つ丁寧に点をプロットしてグラフをかかせるよう指導していく。

また、課題解決型の授業で、生徒自身の個別解決、グループ活動による集団解決の場面を多く取り入れることにより、生徒自身が二次関数の性質を自ら見出したり、活用できるようにしていく。さらに、小さな疑問から大きな疑問までぶつけ合えるグループ活動の中で言語活動を充実させることで、数学的表現力を身に付けさせるとともに、協働的に課題を解決することを通して陶冶的目的であるコミュニケーション能力の育成にも寄与していく。

## 5 単元の目標

二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。

## 6 単元の評価規準

| ア 関心・意欲・態度  | イ 数学的な見方や考え方  | ウ 数学的な技能   | エ 知識・理解   |
|---|---|--|---|
| 具体的な事象の中にある2つの数量の関係に関心をもつ。  | 2つの数量の関係を、表、式、グラフなどを用いて考察することができる。  | いろいろな事象を表す関数について、いくつか点をとってグラフに表すことができる。  | いろいろな事象を表す関数や二次関数について理解し、基礎的な知識を身に付けている。                                  |
| 二次関数とそのグラフについて関心を持ち、調べようとする。<br>$y = ax^2 + bx + c$ のグラフについて関心を持ち、式変形をしてグラフのかき方を考察しようとする。<br>2つの合同な放物線の位置関係について、平行移動の考えをもとに、積極的に考察しようとする。 | $y = ax^2$ のグラフの平行移動によって、 $y = a(x-p)^2 + q$ のグラフの特徴を考察することができる。<br>$y = ax^2 + bx + c$ のグラフの特徴を $y = a(x-p)^2 + q$ の形に変形することにより考察することができる。<br>2つの二次関数のグラフの位置関係を頂点の座標をもとに考えることができる。 | $y = a(x-p)^2 + q$ のグラフをかくことができる。<br>$y = ax^2 + bx + c$ のグラフを $y = a(x-p)^2 + q$ の形に変形することによってかくことができる。<br>$y = ax^2 + bx + c$ のグラフを $x$ 軸方向に $p$ 、 $y$ 軸方向に $q$ だけ平行移動したグラフの方程式を求めることができる。 | $y = a(x-p)^2 + q$ のグラフの特徴を理解している。<br>$y = ax^2 + bx + c$ のグラフの特徴を理解している。 |
| 二次関数の値の変化に関心を持ち、具体的な事象の考察に二次  | 二次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察する  | 二次関数のグラフや式を用いて、二次関数の最大値・最小値を求  | 二次関数の最大値・最小値の意味を理解している。   |

|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| 関数の最大・最小を活用しようとする。                           | ことができる。<br>具体的な事象の考察に二次関数の考えを活用することができる。                          | めることができる。   |  |
| 与えられた条件を満たす放物線をグラフとする二次関数を決定するための条件を調べようとする。 | 与えられた条件を満たす放物線をグラフとする二次関数を決定するための条件を考察することができる。                   | 与えられた条件を満たす放物線をグラフとする二次関数の式を求めることができる。  | 二次関数を決定するための条件を理解している。                               |
| 一定の手続きで二次方程式の解を求めることのよさをとらえようとしている。          | 平方根の考えを基に、二次方程式の解の公式を導き出す過程を考察できる。                                | 因数分解を利用して二次方程式を解くことができる。<br>平方の形に変形して二次方程式を解くことができる。<br>解の公式を用いて実数解を持つ二次方程式を解くことができる。 | 二次方程式とその解の意味を理解し、解の求め方についての基礎的な知識を身に付けている。           |
| 二次関数のグラフと $x$ 軸の位置関係について調べようとする。             | 二次関数のグラフと $x$ 軸との共有点の個数を二次方程式 $ax^2+bx+c=0$ の解の個数と関連付けて考えることができる。 | 二次関数のグラフと $x$ 軸との共有点の個数を $b^2-4ac$ の符号を調べることによって求めることができる。                            | 二次関数のグラフと $x$ 軸との共有点の $x$ 座標は、二次方程式の実数解であることを理解している。 |
| 二次方程式の解に関心をもち、二次関数のグラフを活用して二次不等式の解を求めようとする。  | 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係を知り、二次不等式の解を二次関数のグラフを用いて考察することができる。           | 二次関数のグラフを活用して二次不等式の解を求めることができる。   | 二次不等式の解の意味を二次関数のグラフとの関係から理解している。                     |

## 7 指導と評価の計画（全 26 時間）

| 次 | 学習内容（時数）   | 評 価 |   |   |   |                   |              |
|---|------------|-----|---|---|---|-------------------|--------------|
|   |            | 関   | 考 | 技 | 知 | 評価規準              | 評価方法         |
| 1 | 関数（2 時間）   |     |   |   |   | ア -<br>ウ -        | 行動観察<br>小テスト |
| 2 | 二次関数（6 時間） |     |   |   |   | イ -<br>ウ -<br>エ - | 行動観察<br>小テスト |

|   |                                  |  |  |  |  |                   |                        |
|---|----------------------------------|--|--|--|--|-------------------|------------------------|
| 3 | 二次関数の最大・最小( 6 時間)<br>本時はその 6 時間目 |  |  |  |  | ア -<br>イ -<br>ウ - | 行動観察<br>ワークシート<br>小テスト |
| 4 | 二次関数の決定( 2 時間)                   |  |  |  |  | ア -<br>イ -        | 行動観察<br>小テスト           |
| 5 | 二次方程式( 3 時間)                     |  |  |  |  | ウ -<br>エ -        | 行動観察<br>小テスト           |
| 6 | 二次関数のグラフと $x$ 軸の共有点( 3 時間)       |  |  |  |  | イ -<br>エ -        | 行動観察<br>小テスト           |
| 7 | 二次不等式( 4 時間)                     |  |  |  |  | イ -<br>エ -        | 行動観察<br>小テスト           |

## 8 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・長さ 8 m の金網を使って、なるべく広いウサギ小屋を作ることができる。

### (2) 観点別評価規準

- ・具体的な事象の考察に二次関数の考えを活用することができる。【数学的な見方・考え方】

#### ICE ルーブリック(評価基準)

| 要素                        | 考え・基礎知識<br>(Ideas)             | つながり<br>(Connections)                  | 応用・ひろがり<br>(Extensions)                          |
|---------------------------|--------------------------------|--|--|
| 数学化する力<br>(数学的な見方・考え方)    | 面積の最大値を考えればよいことに気付くことができる。     | 面積の最大値を考えるために、二次関数等の正しい操作を選択することができる。  | 長さ以外を変数としても、面積の増減を調べられることに気付くことができる。             |
| 数学的に表現する力<br>(数学的な見方・考え方) | 数式やグラフ、図形を用いて面積の最大値を求めることができる。 | 他者の意見を聞き、最大値の理由をより分かりやすい表現に修正することができる。 | 面積の最大値と理由を数式やグラフ、図形を用いて発表し、他のグループの人を納得させることができる。 |


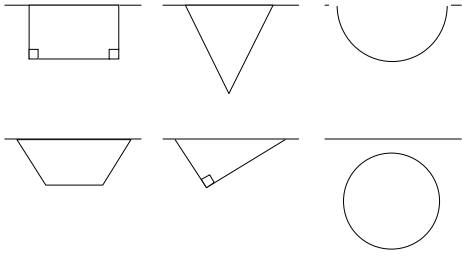
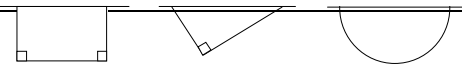
### (3) 準備物

- ・パソコン
- ・8 m の金網の模型(厚紙) 39 個
- ・ワークシート 39 枚
- ・予想貼り付け用紙 10 枚



- ・ミニホワイトボード9個
- ・ホワイトボード用マーカー 黒9本 赤9本
- ・自己評価ルーブリックシート39枚

(4) 学習の展開 (14時間目 / 全26時間)

|            | 学習活動   | 指導上の留意点 ( )<br>( 「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手当て )  | 評価規準〔観点〕<br>( 評価方法 ) |
|------------|--|---|----------------------|
| 導入<br>(10) | <p><b>1 課題意識をもつ。</b><br/>本時の課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>長さ8mの金網を使って、なるべく広いウサギ小屋を作るにはどうすればよいただろうか。</p>  </div> <p>個人で予想を立てる。</p> <p>予想を全体で交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>( 予想される生徒の考え )</p>  </div> | <p>金網の模型(厚紙)を実際に折り曲げて考えるように促す。</p> <p>10名程度指名し、黒板に予想した形を書かせる。「長方形」「直角三角形」「半円」が出なければ、生徒とのやり取りの中で導かせる。</p>  |                      |
| 展開<br>(30) | <p><b>2 本時のめあてを確認する。</b><br/>本時の目標を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目標 長さ8mの金網を使って、なるべく広いウサギ小屋を作ることができる。</p> </div> <p>本時の流れをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Aグループ    Bグループ    Cグループ</p>  </div>  | <p>先程挙げた予想の中から、本時は「長方形」「直角三角形」「半円」の3つ図形の中で、どのウサギ小屋が一番広いのかを求めるところを確認させる。</p> <p>次の説明をし、見通しを持たせる。<br/>まず、「A：長方形」「B：直角三角形」「C：半円」のグループに分かれて、なるべく広いウサギ小屋について調べる。</p> |                      |

|  |  |  |   |
|--|--|--|---|
|  | <p><b>3 課題解決のために考察する。</b><br/>グループに分かれて、発表の準備に取り組ませる。</p> <p>定義域に注意する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(発問例)<br/>金網を折り曲げる長さには限界がないだろうか。</p> </div> <p>他のグループの前で発表する。</p> | <p>次に、各グループが調べたなるべく広いウサギ小屋とその理由を他のグループの前で発表する。<br/>3つ図形のウサギ小屋の中で、どのウサギ小屋が一番広いのかを求めることができ、本時の目標を達成できる。</p> <p>同じグループであれば他の班と意見交換してもよいことを指示する。</p> <p>手が止まっている班へは次の声掛けをする。<br/>A：折り曲げた部分を変数 <math>x</math> とおく。<br/>B：直角をはさむ二辺のうちの一边を変数 <math>x</math> とおく。<br/>C：半円周が 8 m になることからまずは半径を求める。</p> <p>長さが正であることに着目させ、定義域に注意させる。</p> <p>他のグループの発表を聞き、「わかったこと」「わからなかったこと」「理解度」を正直に記入させる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学化する力〔数学的な見方〕(行動観察)</li> <li>・数学的に表現する力〔数学的な見方・考え方〕(行動観察)</li> <li>・数学的に表現する力〔数学的な見方・考え方〕(行動観察, ワークシート)</li> </ul> |
|--|--|--|---|

|                     |   |  |                              |
|---------------------|---|--|------------------------------|
| <p>まとめ<br/>(10)</p> | <p><b>4 本時のまとめをする。</b><br/>本時の目標に照らし合わせて本時のまとめをする。</p> <p><b>5 本時を振り返り，次時につなげる。</b><br/>本時を振り返り，新たな課題を見出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(発問例)<br/>本時は長さを変数 <math>x</math> と置いてウサギ小屋の面積の増減を考えた。では，ウサギ小屋の面積の増減を考える際に，長さ以外に変数と考えられる部分はないだろうか。</p> </div> <p>自己評価する。</p> | <p>次の3点をまとめとして確認させる。<br/>「長方形」「直角三角形」「半円」の3つの図形の中で，どのウサギ小屋が一番広いのかを調べた。<br/>「なるべく広い」「面積の最大」と捉え，長さを変数 <math>x</math> と置いて二次関数の考えを用いてウサギ小屋の面積の最大値を求めた。<br/>調べた結果，3つの図形の中でなるべく広いウサギ小屋は半円のときであった。</p> <p>角度を変数にしても，角度によってウサギ小屋の面積が増減していくことを説明し，数学の応用・ひろがりを実感させる。</p> <p>次章の「図形と計量」や，数学「三角関数」の学習を深める必要性に気付かせる。</p> | <p>・数学化する力〔数学的な見方〕(行動観察)</p> |
|---------------------|---|--|------------------------------|

自己評価ループリック

|                           | C                               | B                              | A                                      | S  |
|---------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--|--|
| 数学化する力<br>(数学的な見方・考え方)    | 面積の最大値を考えればよいことに気付くことができない。     | 面積の最大値を考えればよいことに気付くことができる。     | 面積の最大値を考えるために、二次関数等の正しい操作を選択することができる。  | 長さ以外を変数としても、面積の増減を調べられることに気付くことができる。             |
| 数学的に表現する力<br>(数学的な見方・考え方) | 数式やグラフ，図形を用いて面積の最大値を考えることができない。 | 数式やグラフ，図形を用いて面積の最大値を考えることができる。 | 他者の意見を聞き，最大値の理由をより分かりやすい表現に修正することができる。 | 面積の最大値と理由を数式やグラフ，図形を用いて発表し，他のグループの人を納得させることができる。 |

S : Super (期待以上である)

A : 十分満足できる

B : 概ね満足できる

C : 努力を要する

上の表を見て，あなたの本時の活動を自己評価しなさい。( )をつける)

・数学化する力 ( C ・ B ・ A ・ S )

・数学的に表現する力 ( C ・ B ・ A ・ S )

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目                               | 国語・現代文B   | 授業者  | 峠 千代   |
|-------------------------------------|---|--|--|
| 日時                                  | 平成28年11月29日（火）第1限 3年3組 3-3HR教室  |  |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）                    | 読解や意見発表の場において、他者の考えに触れることを目的としたグループワークを仕組むことによって、自分の考えを深め、分かりやすく表現できる力が身につくであろう。  |  |  |
| 本時の目標<br>（めあて）                      | 本時の場面での「私」の心情を掴み、発表できる。   |  |  |
| 評価方法                                | 授業の最後に意見シートをかかせ、理解の度合いを確認する。  |  |  |
| 個人思考したうえグループ毎に考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動 |   |  |  |
| 段階                                  | 学習活動  | 指導   | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（15分）                         | 本時のめあてと前回までの内容を丁寧に確認する。<br>授業で使った学習プリントを使用しながら復習する。   | 本時はテーマについて個々で考えたことをまとめ、グループに持ち寄りまとめ、発表することを確認する。                         | 前時までに確認したこれまでのあらすじをおさえる。<br>（本時への興味付け）   |
| 展開<br>（30分）                         | 「『私』の自然」が「くい止められる」とはどういうことかを考えさせる。<br><br>学習プリントにある「私」の心情を考え、台詞部分を作成する。<br><br>飯が「鉛のように」感じられるのはなぜかを考えさせる。<br><br>グループ毎に意見を発表する。 | 各登場人物が置かれた状況を把握した上で、個々に考えさせて記入させる。<br><br>4～5人のグループ編成の形にし、それぞれの意見を交換させる。 | それぞれが思考し、自分の考えや感想をまとめて口答や文章表現することが、人に伝えるための表現力を育てる上で大切であることを確認する。（活動の意味付け）<br><br>机間巡視を行いながら、指導を要する生徒にはアドバイスをし、空白のままにならないように注意する。（活動の見守り）<br><br>異なる考えに触れることも相互理解に必要であることを確認する。（活動の意味付け） |
|                                     | 本時の工夫： 学習プリントを活用して考えさせる。  |  |  |
|                                     | 他者の意見を聴いて自分とは異なる点や新たに分かったことを「意見シート」に書く。   |  |  |
| まとめ<br>（5分）                         | 引き続き読んでいくことを確認する。   |  |  |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目   | 国語・国語表現  | 授業者  | 増田 健次  |
|---|--|--|--|
| 日時  | 平成28年11月14日（月）第1限  | 3年1・2組（文型）   | 視聴覚教室  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）  | 読解や意見発表の場において、他者の考えに触れることを目的としたグループワークを仕組むことによって、物事を深く考察し、自分の考えを深め、分かりやすく表現できる力が身に付くであろう。                        |  |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | 聞き手を意識した効果的なプレゼンテーションをすることで、聞き手に商品の良さをアピールする。  |  |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | 簡単なアンケートのついた「プレゼンテーション感想文」を書かせる。   |  |  |
| 1…  | 聞き手を意識したプレゼンテーションができた。   |  |  |
| 2…  | その商品のアピールポイントを明瞭にし、それが欲しいと思わせるような効果的なプレゼンテーションができた   |  |  |
| 段階  | 学習活動   | 指導   | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（5分）  | ・本時の流れを聞き、配付された「プレゼンテーション感想文」の項目を見て、評価の柱を明確に認識する。  | ・「プレゼンテーション感想文」を配付し、それぞれの項目について簡単に説明をする。                                       | ・あまり細かく説明しすぎると生徒の感性誘導をしてしまうことになるので、適度で切り上げる。                                       |
| 展開<br>（40分）   | ・グループ「1」のプレゼンテーション。  | ・進行役を行う。<br>・1グループが終了するごとに「プレゼンテーション感想文」に記入させる。<br>・前グループの撤回、次グループの準備を手早く行わせる。 | ・会の雰囲気を作る。<br>・司会役はあまり多くをしゃべりすぎないように心掛ける。<br><br>・各グループごとに、準備・発表・撤回までを10分の目安で行わせる。 |
|   | <p style="text-align: center;"><b>本時の主となる発問：あまり深く考え込むことなく、今のプレゼンテーションについて5段階の評価を書いてみましょう。感想は1文、2文で良いですよ。</b></p> |  |  |
|   | ・グループ「2」のプレゼンテーション。<br><br>・グループ「3」のプレゼンテーション。<br><br>・グループ「4」のプレゼンテーション。  |  |  |
| <p style="text-align: center;"><b>本時の工夫：生徒にとってはいちばん馴染みのあるプレゼンテーション形態、「テレビショッピング」をイメージさせた。</b></p> |  |  |  |
| まとめ<br>（5分）   | ・「プレゼンテーション感想文」を回収し、本日のまとめと次回予告をする。  |  |  |

## 授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目            | 現代文B  | 授業者                                  | 太田 智子                                    |
|------------------|---|--------------------------------------|--|
| 日時               | 平成28年11月24日（木）第1限 3年1・2組（発展クラス 23名）3-1HR教室  |                                      |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 読解や意見発表の場において、他者の考えに触れることを目的としたグループワークを仕組むことによって、自分の考えを深め、分かりやすく表現できる力が身につくであろう。                        |                                      |  |
| 本時の目標<br>（めあて）   | グループで意見をまとめ、発表本番（12月）に向けたリハーサルをし、本番に向けての修正個所に気付く。   |                                      |  |
| 1, 2の<br>評価方法    | 授業内で発表させ、ルーブリックで評価させる。<br>授業内で発表させ、リハーサルから本番への変容を確認させる。   |                                      |  |
|                  | 1・・・ 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動   |                                      |  |
|                  | 2・・・ 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動   |                                      |  |
| 段階               | 学習活動  | 指導                                   | 指導上の留意点                                  |
| 導入<br>(5分)       | ・評価のルーブリックを確認し、リハーサルを確認する。  | ・本番に向けてのリハーサルなので、今段階で出来るよりよい発表を心掛ける。 | ・本番の発表でより上の評価となるように、修正点が明らかにしていくよう意識させる。 |
| 展開<br>(40分)      | リハーサル開始<br>・1番目のグループ発表  | ・発表をしてみて、ルーブリックを見ながら評価の確認。           | ・本番への改善点が具体的に把握できるよう生徒とシェアしていく。          |
|                  | 本時の主となる発問：「Kはなぜ自殺をしてしまったのだろうか。」   |                                      |  |
|                  | 本時の活動のポイント：「リハーサル以外の班は話し合いや作業をしても、リハーサルを見てもどちらでも構わない。リハーサルを見て、自分たちも取り入れたい方法や改善点に気が付いたら積極的にその気づきは活用しよう。」 |                                      |  |
|                  | ・2番目のグループ発表   |                                      |  |
| まとめ<br>(5分)      | 本時の工夫：ルーブリックで自分たちのリハーサル段階での評価を認識し、本番に向けての修正点をルーブリックをもとに見つけ出す。   |                                      |  |
|                  | ・3番目のグループ発表   |                                      |  |
| まとめ<br>(5分)      | 次回のリハーサル班に向けての予告・本番に向けての準備の確認等を行う   |                                      |  |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目            | 現代社会   | 授業者  | 浅藤 直幸  |
|------------------|--|--|--|
| 日時               | 平成28年11月22日（火）第2限 2年1組   |  |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 単元ごとのテーマにおいて、「なぜ？」という疑問を持ち、それについて討論したりグループで話し合ったりするといった協働作業をすることによって、視野を広げると同時に意思決定できるようになるであろう。 |  |  |
| 本時の目標<br>（めあて）   | なぜ、裁判員制度が導入されたのか？  |  |  |
| 1, 2の<br>評価方法    | グループで話し合い、1つの結論を出していく中で、その過程も含め発表させる。  |  |  |
| 1・・・             | 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動   |  |  |
| 2・・・             | 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動   |  |  |
| 段階               | 学習活動   | 指導   | 指導上の留意点  |
| 導入<br>(10分)      | 興味を持った新聞記事の発表をする。  | 発表を促し、静聴させそのことについてコメントを書かせる。何人かに発表させる。                                     | 多少の解説を行うが、細かなところまでせず、自ら調べるよう促す。                                  |
| 展開<br>(35分)      | 前時の復習<br>・プリントを使用した振り返り。   | 何人かに当てて、キーワードを復習する。  |  |
|                  | <b>本時の主となる発問：なぜ裁判員制度が導入されたのか？</b>  |  |  |
|                  | 裁判員裁判の法廷シーンをDVDで鑑賞する。<br>(約15分)  | グループに分かれ、メモを取りながら鑑賞させる。  | 自分が裁判員に選ばれていると仮定しながら鑑賞するよう促す。                                    |
| まとめ<br>(5分)      | <b>本時の工夫：DVDを使用し、裁判員裁判の実際を鑑賞することによって、その意義を考えさせる。</b>   |  |  |
|                  | グループ内でこの事件について討議し、まとめる。  | DVDを観ての感想を話し合う中で疑問点や、自分が裁判員ならばどのような意見を述べるか、または最終的にどのような判決になるかについて話し合うよう促す。 | 各グループに発表させることで、さまざまな視点があることを実感させたい。<br>(時間が足りなくなった場合はまとめは次時へ回す。) |
| まとめ<br>(5分)      | 裁判員制度が導入されたことの意義について考える。   | 判決のシーンを鑑賞し、裁判員制度についてまとめる。  |  |



授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目            | 現代社会   | 授業者  | 武知 秀樹                       |
|------------------|--|--|-----------------------------|
| 日時               | 平成28年11月29日（火）第2限 2年3組   |  |                             |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 単元ごとのテーマにおいて、「なぜ？」という疑問を持ち、それについて討論したりグループで話し合ったりするといった協働作業をすることによって、視野を広げると同時に意思決定できるようになるであろう。 |  |                             |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 衆議院議員・参議院議員の選挙制度について   |  |                             |
| 1, 2の<br>評価方法    | グループで話し合い、1つの結論を出していく中で、その過程も含め発表させる。  |  |                             |
| 1…               | 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動   |  |                             |
| 2…               | 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動   |  |                             |
| 段階               | 学習活動   | 指導   | 指導上の留意点                     |
| 導入<br>(5分)       | 前時の復習  | 普通選挙, 平等選挙, 秘密投票, 直接選挙, 単記投票                       |                             |
| 展開<br>(40分)      | 熊本市議会議員選挙の結果から<br>相模原市議会選挙の結果から<br>グループ内で計算させてみる。  | 同点の時はどうなる？<br><br>端数はどうして生じるのか？<br><br>端数の計算をしてみる。 | 深入りはしない                     |
|                  | <b>本時の主となる発問：国民の声を反映させるための選挙制度とはなんだろう</b>  |  |                             |
|                  | 衆議院の選挙制度   | 小選挙区と比例代表制があることを確認する<br><br>比例代表制の議席配分の計算を行う       | 小選挙区の課題を導きながら、比例代表制の特徴をみていく |
|                  | <b>本時の工夫：もっとも平等であろうとする方法について、実際に計算してみる。</b>  |  |                             |
|                  | グループ内で計算させ、お互いが理解できるようにする<br>参議院の選挙制度  | 実際に発表させてみる。<br><br>簡単に触れるのみ                        | 各グループに発表させる                 |
| まとめ<br>(5分)      | どうすれば自分の意志、投票が反映されるか   | 投票に行く、きちんと書くことなど                                   | 市選管による模擬選挙について触れる           |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|   |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|
| 教科・科目   | 数学・数学  | 授業者  | 笹方 慎一  |  |
| 日時  | 平成28年11月28日（月）第1限 1年1・2組（基礎クラス）選択 教室   |  |  |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）  | 課題を解決する場面において、協働的に課題を解決する時間を設定することによって、課題を解決する過程やその理由を説明する力が身に付くであろう。  |  |  |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | sin, cos, tan の値から, の大きさを求めることができる。  |  |  |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | 授業の最後に小テストを行い、授業内容が理解できかどうかを生徒に確認する。   |  |  |  |
| 1...  | 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動   |  |  |  |
| 2...  | 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動   |  |  |  |
| 段階  | 学習活動   | 指導   | 指導上の留意点  |  |
| 導入<br>（10分）   | 既習事項である「 $\theta$ が $0^\circ \sim 180^\circ$ の指定された大きさのとき、 $\sin \theta, \cos \theta, \tan \theta$ の値」を確認する。   | カードを使い、各自に値を確認させる。   | 既習事項である「 $30^\circ$ と $150^\circ$ , $45^\circ$ と $135^\circ$ , $60^\circ$ と $120^\circ$ はセットで覚える」ことを強調する。  |  |
| 展開<br>（35分）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>\sin \theta, \cos \theta, \tan \theta</math> の値が分かっているときに、<math>\theta</math> の大きさを求める。</li> <li>• 単位円（半径1の円）上の点の <math>x</math> 座標 = <math>\cos \theta</math>, <math>y</math> 座標 = <math>\sin \theta</math> であることを説明する。</li> <li>• &lt;例題1&gt; (1) <math>\sin \theta = \frac{1}{2}</math></li> <li>• (2) <math>\cos \theta = -\frac{1}{\sqrt{2}}</math></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 発問しながら、板書説明。</li> <li>• 発問しながら、板書説明。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「導入」の内容の逆バージョンであることを強調する。</li> <li>• <math>\tan \theta</math> は別の機会に説明することを伝える。</li> <li>• <math>\theta</math> の値が2つあることを強調する。</li> </ul> |  |
|   | <b>本時の主となる発問：「<math>\cos \theta</math> や <math>\tan \theta</math> が負の数に、どのような図を描きますか？」</b>   |  |  |  |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;練習1&gt; (1) ~ (10)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最初は各自で解くように指示し、途中から2人組を組ませ、協力して解くようにさせる。答え合わせの時には発表させる</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• マイナスは気にせずに、プラスで直角三角形を描いて、<math>\theta</math> の値を求めていくことを強調する。</li> <li>• 机間指導する。</li> </ul>   |  |
| <b>本時の工夫： <math>\cos \theta</math> や <math>\tan \theta</math> が負の数であっても、気にせずに、直角三角形から、角度の目安をつけて、図を描いて <math>\theta</math> の値を求めていくことを理解させる。</b> |  |  |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;練習1&gt; (11) ~ (16)</li> </ul>   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>\theta = 0^\circ, 90^\circ, 180^\circ</math> のときは、上の方法は使えないが、すでに暗記しているはずなので、その知識を活用することを伝える。</li> </ul> |  |  |
| まとめ<br>（5分）   | 授業の最後に小テストを行い、本日のまとめと次回予告  |  |  |  |

## 授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目   | 数学・数学  | 授業者   | 森 真弓   |
|---|--|---|--|
| 日時  | 平成28年11月28日（月）第4限 2年2組（理型） 選択 教室   |   |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）  | 課題を解決する場面において、協働的に課題を解決する時間を設定することによって、課題を解決する過程やその理由を説明する力が身に付くであろう。  |   |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | 2直線のなす角を求めることができる。   |   |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | 本時の課題の解法を図や式を用いて、説明することができる。（ペアワークを観察）   |   |  |
|   | 1・・・ 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動  |   |  |
|   | 2・・・ 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動  |   |  |
| 段階  | 学習活動   | 指導  | 指導上の留意点  |
| 導入<br>(15分)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の課題を確認する。</li> <li>・ 直線とx軸の正の向きとのなす角を考える。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の提示。</li> <li>・ 正接と傾きの関係に気づかせ、整理する。</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学 の内容であるが、1年次に学習していないため、丁寧な指導が必要である。</li> </ul>  |
| 展開<br>(30分)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題1を考える。</li> <li>・ 課題2をグループで考察し、解決する。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発問しながら、全体で考察する。</li> <li>・ 正接を用いることを確認する。考察が進まないグループに助言を行う。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2直線のなす角を求めるときに、<math>90^\circ</math>より小さい方を求めることを確認する。</li> <li>・ 教科書は開かない、ノートは見てもよいことを確認する。</li> </ul> |
|   | <p><b>本時の主となる発問：</b>「2直線のなす角を正接を用いて考えたい。今までに学習したどの公式を用いればよいですか？」</p>   |   |  |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題2の考え方を発表する。</li> <li>・ 課題3を解く。</li> <li>・ 課題4, 課題5を解く。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指名し、発表させる。</li> <li>・ 発問しながら、全体で解決し、解き方を確認する。</li> <li>・ 答えのみを提示する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2直線のなす角を求めるときに、<math>90^\circ</math>より小さい方を求めることを再確認する。</li> </ul>                                      |
| <p><b>本時の工夫：</b>本時の課題解決に、協働的に課題を解決する時間を設けることで、正接の加法定理を用いることに自分たちで気づくことができる。</p> |  |   |  |
| まとめ<br>(5分)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隣の席の人に課題4と課題5の解法を説明する。</li> </ul>                                   |   |  |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|                  |   |                                      |                                    |
|------------------|---|--------------------------------------|------------------------------------|
| 教科・科目            | 理科・化学演習   | 授業者                                  | 久保 哲夫                              |
| 日時               | 平成28年11月22日（火）第6限 3年1・2組（文型・化学演習選択者）化学教室  |                                      |                                    |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 各単元のまとめの場面において，学習内容を他者に説明する活動を取り入れることによって，生徒は，他者を通して自分の表現を客観的に見つめ直すことができ，科学的に表現する力を高めることができるであろう。 |                                      |                                    |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 学習内容を他者に説明することができる。   |                                      |                                    |
| 評価方法             | 各発表者を評価することにより，自分の発表内容を再確認する。   |                                      |                                    |
| 段階               | 学習活動  | 指導                                   | 指導上の留意点                            |
| 導入<br>（5分）       | ・発表の順番及び評価の方法を確認する。   | ・感想の部分に，質問やこうすればもっと良くなる点を記入するよう指導する。 | ・生徒に評価表を配付し，各観点で点数化することを確認する。      |
| 展開<br>（40分）      | 発表順に発表を行わせる。  |                                      | 時間制限があるので，その時間内で，発表をまとめさせることを確認する。 |
|                  | <b>本時の主となる発問：</b> 実験時の苦心した事柄は何ですか。また，これらの実験を行ったことで，新たに興味のあることが発見できたか。                             |                                      |                                    |
|                  | 質問を促す。  | 質問を行うことを事前に伝えておく。                    | 質問が出ないときは，質問をする。                   |
|                  | <b>本時の工夫：</b> 生徒の発表を生徒に行わせることにより，自分の発表に不足している要素に気づかせ，自分の発表に活かすことができる。                             |                                      |                                    |
|                  | 評価表に記入させる。  | 1人の発表時間(すべて)を8分と設定し，順次発表させる。         | 評価表の記入を机間巡視で確認する。                  |
| まとめ<br>（5分）      | 評価表の記入漏れがないかを確認させ，回収させる。<br>簡単に，本日の発表の内容について感想を述べる。また，次回に，評価の最終結果を発表することを伝える。                     |                                      |                                    |

授業観察用学習指導案（2月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目            | 理科・生物   | 授業者   | 濱生 創  |
|------------------|---|---|---|
| 日時               | 平成29年2月8日（水）第4限 2年2組 生物教室   |   |   |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 各単元のまとめの場面において、学習内容を他者に説明する活動を取り入れることによって、生徒は、他者を通して自分の表現を客観的に見つめ直すことができ、科学的に表現する力を高めることができるであろう。 |   |   |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 免疫の単元で学んだことを、他者に対して説明することができる。  |   |   |
| 1, 2の<br>評価方法    | マインドマッピングの記述の質と量を評価する。  |   |   |
| 1・・・             | 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動  |   |   |
| 2・・・             | 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動  |   |   |
| 段階               | 学習活動  | 指導  | 指導上の留意点                                     |
| 導入<br>(10分)      | ・体液性免疫と細胞性免疫について復習する。   | ・スライドを見て振り返る。                                 | ・例え話を取り入れて、可視化できない体内の現象を身近なものと感じられるように工夫する。 |
| 展開<br>(35分)      | ・AIDSについて学習する。  | ・スライドを使用し、発問しながら、説明。                          | ・保健の授業でも学習していることを復習しつつ、科学的な知識を踏まえてしくみを考える。  |
|                  | <b>本時の主となる発問：「生体防御（免疫）の単元でどのようなことを学びましたか？」</b>  |   |   |
|                  | <b>本時の工夫：マインドマッピングの手法を用いて、学んだことをまとめさせる。また、班のメンバーと共有し、学習内容を再確認する。</b>                              |   |   |
|                  | ・各自で学習内容を思い出す。プリントを見てまとめる。班で学習内容を共有した後、もう一度マップを書く。  | ・では、できるだけ多くの枝を書くように促す。<br>では、積極的に話し合うことを指示する。 |   |
| まとめ<br>(5分)      | プリントの裏に感想を書かせ、数人に発表させる。   |   |   |

授業観察用学習指導案（12月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目                                | 理科・物理基礎   | 授業者   | 長井 優典   |
|--------------------------------------|---|---|---|
| 日時                                   | 平成28年12月13日（火）第2限 2年2組（理型・物理基礎選択者）物理教室  |   |   |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）                     | 各単元のまとめの場面において、学習内容を他者に説明する活動を取り入れることによって、生徒は、他者を通して自分の表現を客観的に見つめ直すことができ、科学的に表現する力を高めることができるであろう。   |   |   |
| 本時の目標<br>（めあて）                       | 摩擦の性質について実験を通して説明できる。   |   |   |
| 1, 2の<br>評価方法                        | 発表とノートの記述から評価する。<br>次回の授業で小テストを行い、授業内容が理解できたか生徒に確認する。   |   |   |
| 1・・・                                 | 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動  |   |   |
| 2・・・                                 | 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動  |   |   |
| 段階                                   | 学習活動  | 指導  | 指導上の留意点   |
| 導入<br>(10分)                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>バナナの皮に関する摩擦の研究についての話を聞く。</li> <li>摩擦は接触面から受けること、進行方向と逆向きにはたらくことについての説明を聞く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発問しながら、板書説明。</li> <li>発問しながら、板書説明。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>物理では、なめらかな面とえば摩擦力がはたらかず、粗いといえは摩擦力がはらくことを説明する。</li> </ul> |
| 展開<br>(35分)                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>摩擦力の測定の仕方についての説明を聞く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発問しながら、板書説明。</li> </ul>                                    |   |
|                                      | <b>本時の主となる発問：「摩擦力の性質について実験を通して説明することができるだろうか？」</b>  |   |   |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれ、それぞれのテーマについて実験方法を立案する。</li> <li>テーマ<br/>「物体が動き出す瞬間と動いている間では、どちらの方が摩擦力が大きいか」<br/>「物体にはたらく摩擦力は、物体の質量とどのような関係があるか」<br/>「物体の接触する面積と物体にはたらく摩擦力には、どのような関係があるか」</li> <li>実験を行い、結果を用いて各テーマについて発表する準備をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>3つのテーマを提示し、グループで話し合うよう指示する。また、実験で使用してよい道具を配布する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>科学的に考察するよう数字のあるデータを提示するよう伝える。</li> </ul>                 |
| <b>本時の工夫：全員が発表者をするにより、主体的な学びを促す。</b> |   |   |   |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>各班の発表を聞き、各テーマについて科学的に理解する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は全員するよう指示する。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表の際の姿勢や発表を聞く人の姿勢について考えさせる。</li> </ul>                   |
| まとめ<br>(5分)                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果と摩擦の性質について異なる点があれば補足する</li> </ul>                      |   |



授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目   | 保健体育・体育（柔道）   | 授業者   | 石井 直仁  |
|---|---|---|--|
| 日時  | 平成28年11月30日（水）第4限 1年2組（男子）格技場                                       |   |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）  | 技術練習場面で他者の意見やアドバイスを聞くことで、自身の身体の動きを客観的に捉えることができ、運動技能を習得することができるであろう。 |   |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | 受け身の重要性を理解するとともに、正確な受け身ができるようになる。                                   |   |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | 行動観察  |   |  |
|   | 1・・・ 頭部がマットについていないか意識しながら行う。<br>2・・・ マットをたたいた音とタイミングに注意しながら行う。      |   |  |
| 段階  | 学習活動  | 指導  | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（15分）   | 集合・黙想・挨拶<br>本時の内容・目標の<br>確認   | 整列・服装確認・健康観察<br>目標確認                                    | 丁寧に話をする。   |
| 展開<br>（25分）   | 準備運動<br>ラジオ体操<br>手足首回旋<br>柔軟体操<br>準備動作<br>足蹴り・ブリッチ<br>脇締め・エビ        | 大きく正確に行わせる。<br>大きな声を出させる。<br><br>正確な動作とその意味を<br>理解させる。  | できていない生徒へは、声をかける。<br><br>できていない生徒へは、声をかける。             |
| <b>本時の主となる発問：投げられた時、どういう状態が危険だと思いますか？<br/>正確に行うためには、どういうところに注意する必要がありますか？</b> |   |   |  |
|   | 後方受け身<br>座位・蹲踞  | 前腕部（指先から肘）で<br>叩いているか意識させる。<br>後頭部がマットにつかない<br>よう注意させる。 | 叩くタイミングがずれないよう<br>注意する。                                |
| <b>本時の工夫：数名でお互いの動きを観察し、良い点と悪い点を指摘し合う。</b>                                     |   |   |  |
|   | 側方受け身<br>座位・蹲踞<br>前受け身<br>膝立ち                                       | 1・2・3のリズムで<br>行わせる。<br>恐怖感を克服させるよう<br>声掛けをする。           | できるだけ強く叩く。<br><br>腰が引けないよう（ビビらない<br>よう）、倒れる。           |
| まとめ<br>（10分）  | 本時の目標について振り返る。<br><br>黙想・挨拶・更衣                                      | 数人を指名して発言させ<br>る。<br><br>大きな声を出させる。                     | できたかどうかより、できるよう<br>になるためにどのようなこ<br>とに気を付けたかを考えさせ<br>る。 |

授業観察用学習指導案（12月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 教科・科目   | 保健体育・体育  | 授業者   | 大林 千代  |
| 日時  | 平成28年12月14日（水）第4限 1年2組（女子）体育館  |   |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）                                      | 運動技能の習得場面において基本的な動きを生徒同士で指摘し合うことによって、自分自身の動きを客観的に見る力を養うことができるであろう。                           |   |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | グループごとに発表し互いの良い点に注目することにより、ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、共感し高めあう態度を身に付ける。                               |   |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードへ気づきの記入</li> <li>・学習カードによる振り返り</li> </ul>       |   |  |
|   | 1… 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動<br>2… 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動 |   |  |
| 段階  | 学習活動   | 指導  | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（10分）   | 集合・挨拶・健康観察<br><br>本時のめあての確認<br>準備運動（ストレッチ・補強）  | 整列指導・健康観察<br>服装確認<br>めあての確認<br>W U p                            | はじめをつけさせる<br>安全に配慮する<br><br>意欲的に取組ませる  |
| 展開<br>（30分）   | 発表準備<br>・流れを確認する<br>・グループの打ち合わせ<br>・曲に合わせた練習を1回行う  | 流れの説明<br>ポイントを確認する<br>観察・巡回・声かけ                                 | どのようなダンスを作るのかを明確にする<br>グループで工夫したところを確認するよう指示する<br>積極的に取り組んでいないグループへ声をかける                         |
|   | <b>本時の主となる発問</b><br>「体育祭で、応援団として披露するダンスには、どのような要素が必要ですか」                                     |   |  |
|   | 発表<br>・順番に発表する<br>・感想を記入する<br>・お互いの感想を発表し合う  | カードの配付<br>見てほしいポイントを紹介させる<br>1グループごとメモする時間を取る<br>感想をグループ内で共有させる | 見る態度の指導<br>良かったと思う点をできるだけ多く書き出させる<br>相互尊重のコミュニケーションを取ることを伝える<br>グループ全員の感想を集約して、他のグループへの評価をまとめさせる |
| <b>本時の工夫</b><br><グループごと、見てほしいポイントを伝えて発表し、互いの良い点に注目する> |  |   |  |
| まとめ<br>（10分）  | まとめ<br>・各自の振り返りを行う<br>・次回のめあてを確認する<br>整列・挨拶  | 本時の振り返り<br>カードの回収<br><br>整列指導、服装確認                              | 各自の取組を自己評価させる<br>次時への意欲を持たせる<br>はじめをつけさせる  |



授業観察用学習指導案（12月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|  |  |   |   |
|--|--|---|---|
| 教科・科目  | 保健体育・保健  | 授業者   | 三村 勝彦   |
| 日時   | 平成29年2月1日（水）第1限 1年3組 視聴覚教室   |   |   |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）                                       | 運動技能の習得場面において基本的な動きを生徒同士で指摘し合うことによって、自分自身の動きを客観的に見る力を養うことができるであろう。                             |   |   |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 運動とスポーツの違いについて理解し、スポーツ文化の発展が説明できる。   |   |   |
| 1, 2の<br>評価方法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークへの参加姿勢を評価する。</li> <li>・ノートへの書きだしを確認する。</li> </ul> |   |   |
|  | 1… 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動<br>2… 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動   |   |   |
| <b>段階</b>  | <b>学習活動</b>  | <b>指導</b>   | <b>指導上の留意点</b>  |
| 導入<br>(10分)  | 集合・挨拶・健康観察<br><br>本時の授業内容及びめあての確認  | 整列指導・健康観察<br>服装確認<br>授業内容、めあての説明                    | はじめをつけさせる<br><br>意欲的に取組ませる  |
| 展開<br>(30分)  | 人間とは何か？を考える<br><br>発問<br>人間が生きるために行った動きとは？<br><br>文化の誕生を学ぶ                                     | 人間の特性を説明<br><br>発問を考えノートに記入<br><br>余暇の時間誕生とその使い方を説明 | 動物にない、高度な文化的特徴を持っていることを理解させる<br><br>多く考えを記入させる<br><br>余暇から文化が生まれ、その中にスポーツが含まれていることを理解させる。 |
|  | <b>本時の主となる発問</b><br><b>「運動とスポーツの違いを述べてください」</b>  |   |   |
|  | 発表<br>ノートに記入発表<br><br>スポーツの始まりと変遷について学ぶ  | ペアで発表<br><br>古代オリンピックの説明                            | 話す、聴く態度の指導<br>相手の意見も書き出させる<br><br>古代から近代へとスポーツの変化を理解させる                                   |
| <b>本時の工夫</b><br><b>&lt;パワーポイントを使用し視覚的な要素を取り入れる&gt;</b> |  |   |   |
| まとめ<br>(10分)   | まとめ<br>整列・挨拶   | 本時の振り返り<br>整列指導、服装確認                                | はじめをつけさせる   |

## 授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目            | 芸術科（音楽）   | 授業者                                     | 藤原美穂   |
|------------------|---|---|--|
| 日時               | 平成28年12月9日（金） 第5限 2年1・2組（普通科・選択者） 音楽教室  |   |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 楽譜を視覚的に分かりやすくするために音名にマークする学習や、担当するハンドベルの選択などを協働的に活動することにより、生徒達主体で、楽曲の通しができるようになるであろう。 |   |  |
| 本時の目標<br>（めあて）   | ハンドベルの楽器の奏法を身に付け、多声部の音を聴きながら、自分の音を美しく演奏表現の工夫をすることができるようになる。                           |   |  |
| 1, 2の<br>評価方法    | 授業の最後に本時の学習ワークシートに自己評価や感想を記入して、確認する。  |   |  |
|                  | 1・・・ スコアを読み取って、テンポに合わせることができるか。   |   |  |
|                  | 2・・・ 他のパートとブレンドできる音を響かせることができるか。  |   |  |
| 段階               | 学習活動  | 指導                                      | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（5分）       | 本時のめあてと前回の内容を確認する   | 英語音名の確認をする。                             | 自分の担当するベルの音名の確認をさせる。                               |
| 展開<br>（40分）      | ハンドベルの担当を確認する。  | 担当するハンドベルは、練習過程で変更可能にすることを伝える。          | 見通しを立てることが大切であると伝える。                               |
|                  | 音階を確認する。  | アンサンブルをする際に気を付けることを確認する。                | 曲の主音を確認させる。<br>手法となる音の繋げ方について説明する。                 |
|                  | ピアノ演奏で楽曲の構成を理解する。   | ハーモニーを美しく演奏できるように伝える。                   | テンポ設定の確認をさせる。<br><br>重なる音の響きの違いを意識させる。             |
|                  | <b>本時の主となる発問：和音の響きの違いを聴き取ることができますか。</b>   |   |  |
|                  | 練習をする。  | グループ練習が成立するよう、グループで、工夫をさせる。             | 必要に応じて個人練習と全体練習のアドバイスを。<br>拍の流れに応じた演奏が難しい場面で、助言する。 |
|                  | <b>活動させる手法：音を繋げてまとまりのある演奏に仕上げる。</b>   |   |  |
|                  | まとめの演奏をする。<br>二つのグループ発表する。  | 練習後に改善点を確認する。                           |  |
| まとめ<br>（5分）      | 本時のまとめを行う<br>次回の予告をする。  | ワークシートに本時の評価を記入し、今後の活動にどのように結びつけるかを考える。 | 時間が余れば次に演奏する教科書P72「星に願いを」の模範演奏を聴かせたり、楽譜の説明をする。     |

授業観察学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|   |  |                                     |                                      |       |
|---|--|-------------------------------------|--------------------------------------|-------|
| 教科・科目                                   | 美術   |                                     | 授業者                                  | 木村 哲治 |
| 日時                                      | 平成28年11月28日（月） 第3限 1年1・2組 （普通科・選択者） 美術教室   |                                     |                                      |       |
| 教科の取組み<br>（教科の仮説）                       | 自分の手をモチーフにした彫刻の制作で、立体表現の技法を学ばせながら観察力と創造力を養う。また、手と別のモチーフを組み合せて制作させることで、造形力を高めることができる。 |                                     |                                      |       |
| 本時の目標<br>（めあて）                          | デッサンとポーズをとった自分の手を観察しながら、手の細部を紙粘土・サンドペーパー・カッターナイフで仕上げる。                               |                                     |                                      |       |
| 評価方法                                    | 紙粘土の材質を生かし、サンドペーパーやカッターナイフ等の道具を工夫しながら意欲的に制作をしている（観察）                                 |                                     |                                      |       |
| 段階                                      | 学習活動   | 指導                                  | 指導上の留意点                              |       |
| 導入<br>（5分）                              | 紙粘土と制作道具を準備する。   | 制作が早い生徒の作品を参考にして、完成の基準を理解させる。       | 進度の早い生徒と遅い生徒を把握しながら説明する。             |       |
| 展開<br>（40分）                             | デッサンと自分の手を見ながら、紙粘土・サンドペーパー・カッターナイフで細部を整える。   | 細部を整えるための、カッターナイフとサンドペーパーの使い方を説明する。 | カッターナイフを使用している生徒に注目し、怪我をしない使い方を指導する。 |       |
|   |  | 紙粘土と水を使った仕上げ方を指導する。                 |                                      |       |
| <b>本時の主となる発問：いろいろな角度から観察して制作していますか。</b> |  |                                     |                                      |       |
|   |  | 制作途中で手を止め、いろいろな角度から観察して制作するよう助言する。  | 制作が進まない生徒は、作品に手を加えながら指導する。           |       |
| <b>本時の工夫：紙粘土と水を使った技法の指導。</b>            |  |                                     |                                      |       |
| まとめ<br>（5分）                             | 作品と道具を片付け、掃除をする。   | 作品と道具の置き場所を指示する。                    | 机や床の掃除ができていないか確認する。                  |       |

## 学習指導案

広島県立黒瀬高等学校

|                |   |                          |  |
|----------------|---|--------------------------|--|
| 教科・科目          | 外国語・コミュニケーション英語   | 授業者                      | 伊藤 仁   |
| 日 時            | 平成 28 年 6 月 1 5 日 (水) 第 3 限 1 年 1・2 組 (場所 1 年 1 組教室)  |                          |  |
| 教 材            | COMET English Communication (数研出版)  |                          |  |
| 単 元 名          | Lesson 3 Could You Give Me Some Advice?   |                          |  |
| 単元目標           | 助動詞の基本的な用法を理解する。<br>助動詞を用いて悩み事を人に伝えたり, 人の悩み事に対して解決法を助言することができる。   |                          |  |
| 研究テーマ          | 生徒が主体的に学ぶための授業の創造   |                          |  |
| 指 導 観          | まずは can, must 等の基本的な助動詞の意味と用法を理解させたい。その上で, 助動詞を用いながら実際に高校生にとって身近な「人生(恋愛)相談」を題材に英作文を完成させたい。この課題遂行の副産物として, 生徒に自分も英語で作文ができるのだという達成感をもたせ, 今後の学習意欲の向上, ひいては生徒の主体的な学習への取組みに繋げていきたい。   |                          |  |
| 本時の目標<br>(めあて) | 助動詞を用いて恋愛相談への回答を書くことができる。   |                          |  |
| 本時の工夫          | 特に単元目標の達成のために, 次の三点を工夫している。一点目の工夫は学習形態に関するものである。英作文は多くの生徒にとってかなりハードルの高い課題であることから, グループ活動の形態を採り入れ, グループ内で役割分担し互いに助け合いながら課題に取り組める学習環境となるよう工夫されている。二点目の工夫は, 課題の題材選定に関するものであるが, 生徒の学習意欲を高めることを狙って「恋愛相談」という生徒にとって身近で真正性(authenticity)の高い題材を採り入れたことである。三点目としては, 課題遂行の際にワークシートを活用させることにより英語が苦手な生徒でも本時の英作文課題に抵抗感なく意欲的に取り組めるようにしている。 |                          |  |
| 段 階            | 学習活動  | 指導                       | 指導上の留意点  |
| 導 入<br>(20分)   | 個人スピーチ  | 個人を指名しスピーチさせる。           | 聴く側のマナーを徹底させる。   |
|                | 本時のめあて確認<br>教科書本文の読解  | 数名指名して板書させた後, 簡単な文法説明。   | 説明は簡潔にとどめる。  |
| 展 開<br>(25分)   | 英作文課題への取組み  | ワークシートの手順に従って取り組ませる。     | グループ内で役割分担させる。<br>(司会, 記録, 発表)<br>机間巡視し, ヒントを与えたり各グループの作品を全体へフィードバックしたり, 和英辞典の使い方の要点を指導する。 |
|                | <b>本時の主となる発問: どのような内容のアドバイスがこの女子高校生の悩みの解決に対して有効でしょうか。</b>   |                          |  |
|                | <b>本時の工夫</b> グループ学習の採用    身近な題材の選定    ワークシートの活用   |                          |  |
|                | 発表  | グループ毎に発表させる。             |  |
| ま と め<br>(5分)  | 学習の振り返り   | 助動詞の意味・用法と英作文の要点について再度確認 |  |

外国語科学習指導案

|                |  |   |  |
|----------------|--|---|--|
| 教科・科目          | 外国語・コミュニケーション英語Ⅱ   | 授業者   | 旨行 辰夫  |
| 日 時            | 平成28年11月2日(水) 第5限 2年1・2組(発展クラス) 2-1HR教室  |   |  |
| 教 材            | 高校英語の基礎づくり「プレッパイングリッシュ」改訂版(旺文社)  |   |  |
| 単 元 名          | 不定詞  |   |  |
| 単元目標           | 不定詞の3つの用法, 疑問詞+不定詞などの基本的な用法を身に付ける。   |   |  |
| 指 導 観          | 不定詞の名詞的用法と形容詞的用法については前時までの授業で学習しているので, 本時は副詞的用法についてしっかり身に付けさせたい。                                   |   |  |
| 本時の目標<br>(めあて) | 不定詞の副詞的用法を身に付ける。   |   |  |
| 本時の工夫          | 不定詞の3つの用法の違いをグループで考えさせる。   |   |  |
| 段 階            | 学習活動   | 指 導   | 指導上の留意点  |
| 導 入<br>(10分)   | 前時の単語テストを返却しテスト直しをさせる。<br>「本時のめあて」を板書して説明する。   | 単語帳を見ながら正しく直すよう指導する。<br>不定詞の副詞的用法の2つの意味を確認させる。              | 正しく直しているかチェックする。   |
| 展 開<br>(35分)   | ①の英文和訳の問題を各自で解かせ, 指名しながら答えさせる。<br>②の空所補充の問題を各自で解かせ, 指名しながら答えさせる。<br>③の並べかえの問題を各自で解かせ, 指名しながら答えさせる。 | 下線部に注意しながら解かせる。<br>使う動詞に注意しながら解かせる。<br>不定詞を使う部分に注意しながら解かせる。 | どちらの意味で使われているかを確認させる。<br>日本語のどの部分か注意するよう促す。<br>参考になる英文を見つけるよう促す。 |
|                | <b>本時の主となる発問</b> 「この英文は不定詞の副詞的用法のどちらの意味で使われているのでしょうか」  |   |  |
|                | 練習プリントを配付し各自で解かせる。   | なぜその答えになるのかを説明できるようにさせる。                                    | 不定詞の3つの用法を確認するよう促す。  |
|                | <b>本時の工夫</b> 「不定詞の3つの用法の違いをグループで考えさせる」   |   |  |
|                | 5~6人のグループを作り話し合いをさせる。<br>指名しながら答え合わせをさせる。  | 答の違う人が理解できるように説明させる。  | 机間巡視しながらヒントを与える。<br>違いが分かるように板書する。                               |
| ま と め<br>(5分)  | 本時のまとめと次回の予告をする。   |   |  |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|                  |   |     |       |
|------------------|---|-----|-------|
| 教科・科目            | 外国語・コミュニケーション英語   | 授業者 | 神笠 薫子 |
| 日時               | 平成28年11月17日（木）第3限 3年1組（標準クラス）選択 教室  |     |       |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 言語活動においてペアワークやグループワークを多く採り入れることによって、生徒の英語に対する学習意欲が高まるであろう。                    |     |       |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 化石燃料とバイオマス燃料について、英語で説明ができる。<br>環境問題について自己の考えを英語で述べるができる。                      |     |       |
| 1, 2の<br>評価方法    | パフォーマンス課題として、「化石燃料がバイオマス燃料と二酸化炭素の関係」を英語で発表する。本課のまとめとして、環境問題に対する自己の考えを英語で発表する。 |     |       |
| 1・・・             | 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動                                      |     |       |
| 2・・・             | 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動                                    |     |       |

| 段階  | 学習活動  | 指導   | 指導上の留意点  |
|---|---|--|--|
| 導入<br>(5分)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>greeting</li> <li>small talk "Marathon Meeting"</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Talk in a pair</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>明日への意気込みを喚起する。</li> </ul>   |
| 展開<br>(43分)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>word test 【5 min】<br/>-repeat after the teacher</li> <li>today's point</li> <li>vocabulary of the environment 【5 min】<br/>-answer individually<br/>-test themselves in a pair</li> <li>Listen to the CD (P.56) 【3 min】<br/>-chorus reading</li> <li>Performance Assignment 【20 min】<br/>-explain fossil or biomass in a pair<br/>-present in the front<br/>3 students: Fossil Fuels<br/>3 students: Biomass Fuels</li> <li>Ideas about the environment 【10 min】<br/>-write<br/>-speak out<br/>-feedback</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>Point the students</li> <li>Put them into pairs</li> <li>Lead the students</li> <li>Put them into pairs</li> <li>Point 6 students</li> <li>Invite them to the front</li> <li>Feedback</li> <li>Encourage the students to express their own ideas</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>正しく大きな声で発音する。</li> <li>全員合格を目指す。</li> <li>「本日の発表+意見作成」のための語彙となることを強調する。</li> <li>内容を考えながら英文を読み進める。</li> <li>イラストと照らし合わせながら、大きな声でクラスの前で発表する。</li> <li>聞く生徒は、発表者の良い点を指摘できるようにする。</li> <li>全員が英語で説明できたことを褒める。</li> <li>本課で学習した語彙を駆使して、英文を作ることを促す。</li> </ul> |
|   | <p><b>本時の主となる発問：</b><br/>"What kind of energy do you think is good for the future? And why?"</p>  |  |  |
| <p><b>本時の工夫：</b>「パフォーマンス課題」として、エネルギー問題に関して得た語彙をもとに、情報や自身の考えを暗唱ではなく、考えながら英語で説明をする。</p> |   |  |  |
| まとめ<br>(2分)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Self Evaluation</li> <li>About next class</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Talk in a pair</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>良い所を見い出す。</li> </ul>  |

学習指導案

広島県立黒瀬高等学校

|  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| 教科・科目  | 外国語・コミュニケーション英語   | 授業者   | 寺下 美穂   |
| 日時   | 平成 28 年 5 月 14 日(土) 第 4 限 1 年 3 組 1 年 3 組 HR 教室   |   |   |
| 教材   | COMET English Communication (数研出版)  |   |   |
| 単元名  | Lesson 1 Why do we study English?   |   |   |
| 単元目標   | 世界で注目されている「弁当」の魅力を紹介する。   |   |   |
| 指導観  | 静かに学習しているクラスだが、漫然と授業をしてしまうこともあり、時に集中力を欠いている生徒もいる。いろいろな活動をさせながら、理解につながるように工夫する必要がある。         |   |   |
| 本時の目標<br>(めあて)   | 日本から発生した『弁当』が、「bento」という英語にもなっているほど、なぜ世界で注目されているのか考えさせる。                                    |   |   |
| 本時の工夫  | 1 時間のうちに、いろいろな活動をさせていく。   |   |   |
| 段階   | 学習活動  | 指導  | 指導上の留意点   |
| 導入<br>(10分)  | あいさつ<br>前日の単語テストの返却   | 点数をシートに記録させ、間違った問題を復習させる。   | 忘れ物がないか、確認。   |
| 展開<br>(35分)  | 英語で日付を板書。<br>英語で日付を言う。  | ゲーム実施後、板書・発音する生徒を決める。   | 板書されたら、生徒はノートに日付を書く。  |
|  | <u>Warming up</u>   | まずは自分で取り組み、CD で解答する。発音する。   | 生徒にも発問する。<br><u>答え方</u><br>I like the _____ one.  |
| <b>本時の主となる発問：Which bento do you like?</b>                  |   |   |   |
|  | <p><u>p14 本文の学習</u><br/>CD を聞く□<br/>新出語句の導入</p> <p>CD を聞く□</p> <p>内容把握のプリント配布</p> <p>音読</p> | <p>本文に数字ふり<br/>辞書で調べる。<br/>意味の確認<br/>新出語句の発音<br/>教科書にマーキング</p> <p>「日本の弁当が海外で人気なのはど<br/>うしてでしょうか。」の答を考えなが<br/>ら英語を聞く。 答を問う。</p> <p>教科書を見ながら記入する。<br/>プリントの解答</p> | <p>調べた単語に必ず下線を引かせ<br/>る。</p> <p>真剣に英語を聞くように。</p> <p>教科書に、意味の塊ごとにスラッ<br/>シュを書き込むよう指導。</p> <p>飽きさせないような音読の指導に<br/>留意する。</p> |
| <b>本時の工夫「辞書を使う、板書する、発音する、音読する等、いろいろな活動を 1 時間の中でさせていく。」</b> |   |   |   |
| まとめ<br>(5分)  | 本日のまとめを行う。<br>次時の予告   |   |   |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 教科・科目   | 福祉・生活支援技術  | 授業者   | 武智 朋子  |
| 日時  | 平成28年11月24日（木）第3限 3年3組（介護福祉士類型） 3号館会議室   |   |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）  | 課題提示学習において知識技術等を活用させる工夫を行うと、生徒が調べ学習等を行い、自己の課題を発見し課題の解決方法に気づき、社会で実践できる力がつくであろう。   |   |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | 生徒同士で「障害の理解」の問題を考え、回答・解説することにより、腎障害・呼吸器障害の学習へと理解について、それぞれ自分の課題を発見し解決することができ、分かる。   |   |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | テストにより、生徒の理解度を確認する。<br>解説・質問によって、腎障害・呼吸器障害の理解を観察し、類似問題により確認する。<br>1・・・ 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動<br>2・・・ 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動 |   |  |
| 段階  | 学習活動   | 指導  | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（5分）  | ・既習事項である「腎障害・呼吸器障害」について、テストと解説を生徒が行うことを確認する。   | ・前時の指示を確認し、テスト（12問）を10分で行う事を確認する。   | ・「腎障害・呼吸器障害」の特徴にふれる。   |
| 展開<br>（30分）   | 問題を解く。   | 問題配布<br>（2問/1人生徒が作った問題）   | ・国試を受ける方法で、自信度とキーワードを書きながら行う様指示する。                             |
|   | <b>本時の主となる発問：「しっかり問題を読んで、なぜ正しいのか、どこがなぜ誤っているのかを考え、適切に答えよう」</b>  |   |  |
|   | ・前に出て1人ずつ発表する。<br>解答と解説を行う。<br><br>・質疑応答をする。   | ・解答解説のプリントを配布する。<br>・なぜ正しいのか、どこがなぜ誤っているのかを明確にさせる。<br>・挙手で質問をさせ、発表者に指名させる。 | ・黒板を使用しても良い。<br>・教科書やファイル（ページ数）を提示するように助言する。<br>・考え根拠が出るように促す。 |
| <b>本時の工夫：不適切な問題があつたりするが、解答解説の質疑等により、そこに気づき、意見交換し理解を深める。</b> |  |   |  |
|   | ・類似問題について答える。  | ・ワークブックやノートに記入して確認させる。  |  |
| まとめ<br>（5分）   | 自己の学習の課題について感想を発表する。<br>本日のまとめと次回予告  | 全体の学習方法へのヒントを助言する。  | 家庭学習時間をとるよう促す。   |



授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

|                  |  |   |   |
|------------------|--|---|---|
| 教科・科目            | 看護・成人看護  | 授業者   | 安吉 千穂                                     |
| 日時               | 平成28年11月22日（火）第3限 3年3組 看護・成人看護 選択者 会議室<br>参加者：3年3組介護福祉類型，「遊びと保育」選択者，1年3組                       |   |   |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 課題提示学習において知識技術等を活用させる工夫を行うと，生徒が調べ学習等を行い，自己の課題を発見し課題の解決方法に気づき，社会で実践できる力がつくであろう。                 |   |   |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 他者が「読んでみたい」と思えるような書評発表ができる。  |   |   |
| 1, 2の<br>評価方法    | 発表後に評価表を記入させる。   |   |   |
|                  | 1... 暗記・再生型から思考・発信型に変換し，考えをまとめ，話し合い，伝えるといった活動  |   |   |
|                  | 2... 「学習者にとって，どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動  |   |   |
| 段階               | 学習活動   | 指導  | 指導上の留意点                                   |
| 導入<br>（10分）      | ・「ビブリオバトル」のルール・評価のポイントについて知る。  | ・ルール・評価方法・進行についての説明を行う。                     | ・事前に個人で本を選んで読み，予選会で9人から選出した3人を発表させる。      |
| 展開<br>（30分）      | ・第1題発表<br>・発表毎に質問事項・感想を記録する。   |   | ・司会者，記録者，発表者を決めておく。<br>・1題，移動も含め10分以内とする。 |
|                  | <b>本時の主となる発問：</b> 「自分が選んだ本を書評（ビブリオ）するにあたり，他者に「読んでみたい」と思わせるにはどのような工夫が必要だと思いますか。」                |   |   |
|                  | ・第2題発表<br>・第3題発表   |   |   |
|                  | <b>本時の工夫：</b> バトル形式にして気持ちを盛り上げる。<br>・生徒主体で進行させ，それぞれの役割を理解させる。<br>・多くの生徒を参加させ，読書を身近に感じるきっかけとする。 |   |   |
|                  |  | ・発表者は評価表を記入させる。<br>・参加者は読んでみたい本，理由，質問を書かせる。 |   |
| まとめ<br>（10分）     | ・評価表に記入する。<br>・本日のまとめと次回予告   | ・評価表を回収する。                                  | ・投票結果は終礼で発表する                             |

## 授業観察用学習指導案（12月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目   | 福祉・遊びと保育  | 授業者   | 池上 千華 ・ 段 美幸                                       |
|---|---|---|--|
| 日時  | 平成28年12月14日（水）第1限3年3組（総合福祉類型・遊びと保育選択者）福祉棟2階                           |   |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）  | 課題を解決する場面において、協働的に課題を解決する時間を設定することによって、課題を解決する過程やその理由を説明する力が身に付くであろう。 |   |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | 自分の作品のPRをし、また他者の作品の評価をすることにより児童文化財に必要な要素や視点を確認できる。                    |   |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | 発表やグループワークの様子を観察する<br>評価表（ワークシート）により確認する。                             |   |  |
|   | 1・・・ 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動                         |   |  |
|   | 2・・・ 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動                       |   |  |
| 段階  | 学習活動  | 指導  | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（5分）  | 本時の学習内容を確認する。<br><br>自分の作品やワークシートを準備する。                               | 本時の流れの確認と発表の準備をさせる。   |  |
| 展開<br>（45分）   | 発表と評価のルールを確認する。<br><br>前に出て一人ずつ発表する。                                  | 制限時間を守ることを伝える。<br>評価の視点を確認する。<br><br>発表・聞く態度に注意するよう伝える。       | いい加減な気持ちで評価をするのは失礼になることを押さえる。<br><br>必要に応じてメモをとらせる |
|   | <b>本時の主となる発問:</b> 「評価の視点に添って、作品のどこがよいのかをしっかりと考えよう」                    |   |  |
|   | 班ごと最優秀作品を選ぶ。  | 視点に基づいた自分の意見を他者に伝え、優秀作品を選ぶよう伝える。                              | 作品を自由に見て評価してよいことを伝える。                              |
| <b>本時の工夫:</b> 個人の意見を他者とのコミュニケーションを通して、意見をまとめることにより、おもちゃに必要な工夫や視点を理解できる。 |   |   |  |
|   | 最優秀作品とその作品を選んだ根拠の発表をする。最優秀作品に次ぐ作品も発表する。                               | 班の代表に発表をさせる。  | 児童文化財という視点での評価ができたか振り返らせる。                         |
| まとめ<br>（5分）   | 本時のまとめと次回の学習内容を確認する。<br><br>評価表を提出する。                                 | 児童文化財に必要な視点は何かを確認させる。<br><br>各科目で学んだことが様々な学習場面で生かされていることを確認する | 実務、コミュ技などで学んだことを使っていることや、学んだことを実践してこそ意味があることを伝える。  |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目            | 福祉・生活支援技術   | 授業者   | 黒瀬 香帆里  |
|------------------|---|---|---|
| 日時               | 平成28年11月28日（月）第2～3限 1年3組（男子2名，女子15名）福祉棟3階   |   |   |
| 教科の取組み<br>（教科仮説） | 課題提示学習において知識技術等を活用させる工夫を行うと，生徒が調べ学習等を行い，自己の課題を発見し課題の解決方法に気づき，社会で実践できる力がつくであろう。  |   |   |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 排泄介助の方法と用具を利用者の状況に合わせて選択する必要性を考えることができる。<br>排泄用具，排泄用品についてリーフレットを用いて分かりやすく説明することができる。  |   |   |
| 1, 2の<br>評価方法    | 発表後，発表内容とリーフレットについて，評価表を用いて評価する。  |   |   |
| 1・・・             | 暗記・再生型から思考・発信型に変換し，考えをまとめ，話し合い，伝えるといった活動  |   |   |
| 2・・・             | 「学習者にとって，どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動  |   |   |
| 段階               | 学習活動  | 指導  | 指導上の留意点   |
| 導入<br>（15分）      | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習目標の確認</li> <li>発表の流れを確認し，グループで最終確認をする。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>出欠確認（授業道具の確認）</li> <li>本時の学習目標を示す</li> <li>発表の流れを説明する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート，リーフレットを配付する。</li> </ul>                                     |
| 展開<br>（70分）      | 排泄用具・排泄用品について<br>・各グループの発表<br>1 尿器<br>2 ポータブルトイレ<br>3 採尿器<br>4 便器<br>5 排泄用品<br>発表時間<br>・各グループ 6分<br>・質疑応答 3分                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表中はメモをとり，各グループが発表後は質疑応答，評価表の記入があることを伝える。</li> <li>各グループの発表（排泄用具，排泄用品）について補足，修正をする。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで協力をさせる。</li> <li>質疑応答では，必ず1人一回は質問をすることを伝える。</li> </ul>        |
|                  | <b>本時の工夫：</b> 生徒が事前に調べ，グループで作成したリーフレットを用いて，発表をさせる。  |   |   |
|                  | <b>本時の主となる発問：</b> 「発表を聞き，排泄用具や排泄用品がなぜ必要なのかを考えよう！」   |   |   |
|                  | 排泄の状態に応じた排泄の場，用具選択について理解する。<br>・発表を聞いて，気づきを発表する。<br>・排泄用具，用品に実際に触れ，活用方法について知る。<br>ポータブルトイレ<br>尿器・便器<br>おむつ<br>その他<br>（パウチ，尿道留置カテーテル，浣腸など） | <ul style="list-style-type: none"> <li>何のために用いるのか，生徒に発表させ板書する。4つの基本原則に基づき，排泄介助に必要なことを確認させる。</li> <li>排泄用具を提示し，それぞれの名称や活用方法について説明する。ワークシートにメモをとらせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>排泄用具の活用方法では，プライバシーの確保や自立支援，個人の排泄習慣の尊重，安全面等にも配慮して，説明を行う。</li> </ul> |
| まとめ<br>（15分）     | 本時のまとめ<br>・目標の振り返りをする。<br>次回の学習内容を知る。   | 本時のまとめ<br>・目標の振り返りをさせる。<br>次回の学習内容を伝える。   |   |

授業観察用学習指導案（11月）

平成28年度授業研究テーマ：生徒が主体的に学ぶための授業の創造

広島県立黒瀬高等学校

| 教科・科目   | 福祉・コミュニケーション技術  | 授業者  | 渡邊 大記  |
|---|---|--|--|
| 日時  | 平成29年2月2日（木）第2限 1年3組 1-3HR教室  |  |  |
| 教科の取組み<br>（教科仮説）  | 課題提示学習において知識技術等を活用させる工夫を行うと、生徒が調べ学習等を行い、自己の課題を発見し課題の解決方法に気づき、社会で実践できる力がつくであろう。  |  |  |
| 本時の目標<br>（めあて）  | 聴覚障害の人の心理と、コミュニケーションの留意点がわかる。   |  |  |
| 1, 2の<br>評価方法   | 行動観察（生徒のメモの内容や、自主的に調べている様子を確認する。）<br>ワークシートのまとめ感想を確認する。   |  |  |
|   | 1・・・ 暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動<br>2・・・ 「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動  |  |  |
| 段階  | 学習活動  | 指導   | 指導上の留意点  |
| 導入<br>（15分）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害をイメージする。</li> <li>本時の目標を確認する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種害を提示し、障害の程度を問う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害は、単に聞こえないだけではないことを伝える。</li> </ul>   |
| 展開<br>（30分）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害の基礎知識を確認する。</li> <li>聴覚障害の分類を確認する。</li> <li>コミュニケーションの方法を確認する。</li> <li>聴覚障害がある人とのコミュニケーション方法の基本を確認する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>何故、そのような対応が必要かペアで考える。</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の図を用いて、聴覚障害の種類と、聴覚のしくみを確認させる。</li> <li>難聴・ろう、中途難聴について理解させる。</li> <li>聴覚障害者のコミュニケーション手段を説明する。</li> <li>コミュニケーション方法の基本を板書する。</li> <li>生徒数人を指名し、答えさせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心を持たせ、メモを取らせる。</li> <li>先天性と後天性の違い（言語の獲得）を理解させる。</li> <li>ワークシートに記入させる。</li> </ul> |
|   | <p><b>本時の主となる発問：</b>「聴覚障害がある人には、何故このようなコミュニケーション方法が必要か。」</p>  |  |  |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害がある人の心理について教科書を確認する。</li> <li>聴覚障害の人が、介助が必要な場合の対応について考える。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>耳が聞こえないことは不安や孤独感を感じることを理解させる。</li> <li>介助時の不安な気持ちとその対応をペア考えさせ、板書する。</li> </ul>  |  |
| <p><b>本時の工夫：</b>聴覚障害を疑似体験するにはどうしたらいいか問い、聴覚障害について理解したことを確認させる。</p> |   |  |  |
| まとめ<br>（5分）   | 本時のまとめをする。  | 次回の学習内容を伝える。   |  |

福祉科学習指導案

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 教科・科目   | 福祉・介護福祉基礎   | 授業者   | 段 美幸  |
| 日時  | 平成 28 年 11 月 29 日 (火) 第 4 限 2 年 3 組 (介護福祉類型) 会議室・演習室  |   |   |
| 教科の取組み<br>(教科仮説)  | 課題提示学習において知識技術等を活用させる工夫を行うと、生徒が調べ学習等を行い、自己の課題を発見し課題の解決方法に気づき、社会で実践できる力がつくであろう。  |   |   |
| 本時の目標<br>(めあて)  | 「安楽死」を日本で採用すべきかどうか、論拠をまとめお互いの意見を聞き、自分の考えをまとめることができる。  |   |   |
| 1, 2 の<br>評価方法  | 授業の最後に生徒自身が授業前と後でどのように感じたかを発表する。<br>授業の最後に生徒が自己評価と授業を通じて感じたことをまとめる。<br>「学習者にとって、どのような学びが起きているか」ということを意識する学習者中心の活動<br>1・・・心の活動<br>2・・・暗記・再生型から思考・発信型に変換し、考えをまとめ、話し合い、伝えるといった活動 |   |   |
| 段階  | 学習活動  | 指導  | 指導上の留意点   |
| 導入<br>(5分)  | ・事前に配られたワークシートをもとに、本時の授業の流れとテーマを再確認する。  | ・板書をみながら、本時のめあてを確認する。<br>・事前に配られたワークシートを確認しながら、流れを説明する。 | ・「安楽死」を通じて、介護職として、人の死にどう向き合えばよいかについてふれる。            |
| 展開<br>(30分)   | ・事前に安楽死導入に肯定的な意見をもつ生徒と否定的な生徒、どちらでもない生徒に分かれ、ディベートを行う。  | ・客観的にディベートを進めていくよう司会の生徒に伝える。                            | ・どちらの意見でもない生徒に議論の進行を行ってもらい、客観的にディベートをすすめていくよう観察を行う。 |
|   | <b>本時の主となる発問:</b> 「日本での安楽死導入に肯定ですか？否定ですか？それぞれの論拠を述べてみましょう。」   |   |   |
|   | ・肯定派の意見を述べる。<br>・否定派の意見を述べる。<br>・それぞれの意見に対して質問をする。  | ・発問しながら、生徒自身がホワイトボードにまとめた板書見ながら説明する。<br>・意見を述べやすくする。    | ・より説得力のある論拠となっているかを確認する。                            |
| <b>本時の工夫:</b> ディベートを取り入れることによって、安楽死を取り巻く様々な意見があることを理解させる。その知識を活用して人の死にどう向き合えばよいかを考える。 |   |   |   |
|   | ・ディベート前と後で自分の考えがどうなったかをまとめ発表する。   | ・プリントに書かれている順番に自分の考えを発表する。                              | ・他の人の意見を整理するよう伝える。                                  |
| まとめ<br>(5分)   | ・授業の事後評価と感想をまとめる。本日のまとめと次回予告を行う。  |   | ・介護職として人の死にどう向き合うときのキーワードを示しながら、まとめを行う。             |

## 学習指導案

広島県立黒瀬高等学校

|  |   |   |  |
|--|---|---|--|
| 教科・科目  | 福祉・生活支援技術   | 授業者   | 重本 恵・安吉 千穂・大石 恩  |
| 日 時  | 平成 28 年 11 月 2 日（水） 第 5 限 2 年 3 組（総合福祉類型） 2 - 3 H R 教室  |   |  |
| 教 材  | 生活支援技術（実教出版） 認知症サポーター養成講座標準教材 2 冊<br>介護職員初任者研修テキスト第 3 分冊（老化と認知症 障害の理解）  |   |  |
| 単 元 名  | 自立に向けた生活支援技術 高齢者の生活と介護  |   |  |
| 単元目標   | 認知症高齢者への支援について理解する。   |   |  |
| 指 導 観  | 生徒は介護実習に入る前に、認知症サポーター養成講座を受講している。10 月にあった 2 週間の介護実習で、様々な高齢者とコミュニケーションを図っていると考えられる。認知症の方との関わりを思い出し、前日にまとめさせておく。そのコミュニケーションについて話し合い、どのような対応がふさわしいのか発表させ、実習での学びを共有させたい。        |   |  |
| 本時の目標<br>（めあて）   | 認知症高齢者の特徴を踏まえ、どのようなコミュニケーションがふさわしいか考え、発表することができる。   |   |  |
| 本時の工夫  | 事前に生徒に利用者との関わりをまとめさせておき、その事例をもとに考えさせる。  |   |  |
| 段 階  | 学 習 活 動   | 指 導   | 指 導 上 の 留 意 点  |
| 導 入<br>（10分）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の説明を聞く。</li> <li>・グループごとに席を移動する。</li> <li>・グループ内の役割を決定する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてと事例を提示する。黒板提示とワークシートを配布する。</li> <li>・席の移動を指示する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で、役割を決める。<br/>（司会・記録・発表者）<br/>（T 1）</li> </ul>   |
| 展 開<br>（35分）   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で、対応の場面を振り返り、ワークシートに記入する。</li> <li>・グループで事例に対する対応を考え、話し合う。</li> <li>・グループごとに発表する。</li> <li>・他のグループが発表したことをワークシートに記入する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人作業で、対応の場面を振り返り、まとめさせる。<br/>（指導を受けたこと、職員の対応について）</li> <li>発表方法について指示する。</li> <li>・発表用シートに沿って発表する。同時に対応方法について掲示する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視を行う。</li> <li>・教員がグループに入り、グループで意見が出るよう助言する。<br/>（T 2・T 3）</li> <li>・発表は静かに聞かせる。</li> <li>・他者の発表はメモをとらせる。<br/>（T 1・T 3）</li> </ul> |
| <b>本時の主となる発問：</b> 認知症高齢者の方とのコミュニケーション場面を振り返り、どんな対応がふさわしいでしょうか。                                     |   |   |  |
| <b>本時の工夫：</b> 事前にコミュニケーションの場面をまとめさせておき、同じ意見が出たメンバーでグループ分けをする。既習学習をもとに、介護実習で体験した場面を取り上げ、イメージしやすくする。 |   |   |  |
| ま と め<br>（5分）  | <ul style="list-style-type: none"> <li>本日のまとめ</li> <li>認知症の方と関わる際の留意点</li> <li>についてのまとめ。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表後、質問時間を設ける。</li> <li>生徒の意見を再度振り返り、認知症の方とのコミュニケーションの際に留意する点をまとめる。</li> </ul>   |  |

## 平成28年度 授業研究のまとめ（国語科）

### 1 教科仮説

「読解や意見発表の場において、他者の考えに触れることを目的としたグループワークを仕組むことによって、自分の考えを深め、分かりやすく表現できる力が身に付くであろう。」

#### 仮説設定の理由

本校の生徒は、自己肯定感が低く、他者の考えを受容するのが不得手であり、自身の考えを他者に伝達する力も弱い傾向にある。そのため物事に対し主体的に取り組む態度を育み、互いに評価し合うことで自己肯定感を高めることが必要である。また、他者の立場に立って考え、相手の感情を汲み取る力を育み、自分と異なる価値観を認め受容し理解する能力や、コミュニケーション力も身に付けることも大切である。よってそれらの礎となる表現力や思考力・判断力のスキルを身に付けさせることを本教科の仮説として設定した。

### 2 取組み

| 科目   | 学年         | 取組みの具体的内容   |
|------|------------|---|
| 現代文B | 3学年<br>普通科 | 研究授業では小説『こころ』（夏目漱石）を教材として扱った。「Kはなぜ自殺したのか。」というテーマに対して、それぞれのグループに仮説を立てさせ、丁寧に本文を読解することで検証していくようにさせた。その検証を元にグループ発表をさせ、質疑応答を行い、全体の考察が深まるように展開した。各グループの検証に対して、自分たちの検証を元に質疑を行い、活発な意見交換がなされ、自分たちだけの読解以上の考察の深まりを実感できていた。小説を読むことの楽しさも実感できた。   |
| 現代文B | 3学年<br>福祉科 | 研究授業では小説『こころ』（夏目漱石）を教材として扱った。前回までの内容確認をし、主人公『私』の「自然」が「くい止められる」とはどういうことかを中心に考えるよう指示をした。最初ワークシートを配付して個々で思考する時間を取り、その際空白のままにならないように机間巡視し指導した。その後5～6人のグループで班を編成し、意見交換をさせながら課題に取り組みせ、班ごとに発表させた。それぞれ個々の意見を持ち寄る指導をしたためか、班毎の意見交換は活発になされたように考える。また、他者の意見を聴いて自分とは異なる点や新たに分かったことを「意見シート」に書かせた。 |
| 国語表現 | 3学年<br>普通科 | 研究授業では、聞き手を意識した効果的なプレゼンテーションをすることをめあてとした授業を行った。そのプレゼンテーションを通して、自分の考えを深め、分かりやすく表現す   |

|  |  |   |
|--|--|---|
|  |  | <p>る力を身に付けるということを目的に、グループワークを仕組んだ。4～5人のグループを全部で4つ編成し、それぞれが行ったプレゼンテーションに対し、簡単なアンケートのついた「プレゼンテーション感想文」を書かせた。架空の商品のプレゼンテーションであったため、その商品の使用法や特長説明に工夫があり、生徒は楽しく他グループのプレゼンテーションを聞くことができた。</p> |
|--|--|---|

### 3 検証

各授業においてワークシートや意見シートを活用したり、発表の場を設定したりする中で、生徒間での意見交換や発表に対する評価を行った。それにより、生徒は他者の様々な考えや意見に触れ、また表現方法を学ぶことができたと考えられる。

### 4 今後の課題

ルーブリックを用いて生徒自身に現段階を確認させる授業実践については、まだ一部でしか行われておらず、今後科内で共通事項として実施していく必要がある。



### 1 教科仮説

「單元ごとのテーマにおいて、「なぜ？」という疑問を持ち、それについて討論したりグループで話し合ったりするといった協働作業をすることによって、視野を広げると同時に意思決定できるようになるであろう。」

#### 仮説設定の理由

地歴公民科のさまざまな科目の中で 難解な用語が多々出てくるがそれらをただ覚えるのではなく、実はそれらは自分たちの生活に大きくかかわっているのだということを意識させたい。そのために、常に「なぜ？」という疑問を持ち、それについてグループで話し合ったりすることによって、それが「学び合い」の場になり、そのことから自らの視野が広がったり、自ら調べていったりする生徒が増えていくのではないかと考え設定した。

### 2 取組み

| 科目   | 学年 | 取組みの具体的内容   |
|------|----|---|
| 現代社会 | 2年 | <p>授業の冒頭で新聞記事の中から、自分が興味を抱いたものについて切抜きをさせ、紹介させた（毎回）。その際には自分の意見を付け加えさせている。その中にはなぜその記事を選んだかについて必ず触れるよう促している。</p> <p>メインテーマとしては「なぜ裁判員制度が導入されたのか？」というテーマを投げかけ、基本的な事項を押さえたのち、疑似体験としてDVDを用いて法廷シーンを視聴した。その後グループに分かれ、この事件について討議し、グループとしての結論を発表し合った。</p> |
| 現代社会 | 2年 | <p>18歳選挙権が実施され、また2月に「政治的教養の教育」の出前授業が実施されることもあり、選挙制度について授業を行った。</p> <p>日本の選挙の原則から生じる可能性がある出来事を、実際の選挙結果に即して、生徒に思考させてみた。また、ありきたりではあるが、比例代表のドント式について、理解させるため、生徒が互いに教えあう場を設定した。</p>  |

### 3 検証

各定期試験において、何問か論述問題を設定した。

「裁判員制度」については、

「20XX年、あなたのもとに裁判員になりましたとの通知がきました。あなたは行きますか、それとも辞退しますか。その理由も含めて自由に述べよ。授業で観たDVDも参考にすること。（裁判員は辞退できないのが原則であるが、ここではそれは問わない）」

「18歳選挙権」については、

「選挙の大切さについて皆さんが小学生に選挙の大切さを説明するとしたらどのように言いますか。」

というものを設定した。いずれも答えは一つではない。どちらの質問に対しても8割以上の生徒が自分のことばで解答していた。授業の中でグループ討議をしたことを基に、やがて自分も当事者になるという意識が解答文からうかがうことができた。

#### 4 今後の課題

今後はパフォーマンス課題のあり方を検討するとともにループリックの作成・改善、及びそれを活用した授業について実践・検証を積み重ねていきたい。また、協働学習の形態についてテーマ設定や発問と共に研修を深めたい。1年間新聞の切り抜き記事の発表を継続してみても感じたのは、中には安易に「すごかった」という感想のみで記事を選ぶ生徒もいたが、多くの生徒はできるだけ難しそうな記事を選んで説明したいという気持ちを持っているということである。それらの興味・関心をタイムリーな形で取り上げていけば、自己肯定感も増し、さらなる探究心へつながるのではないか。

## 1 教科仮説

「課題を解決する場面において、協働的に課題を解決する時間を設定することによって、課題を解決する過程やその理由を説明する力が身に付くであろう。」

### 仮説設定の理由

「主体的な学び」を促すためには生徒の能動的な学び、学習者基点の学び、深い学びを意識した学習活動を組み立てていくことが必要である。そこで、教員の説明を聞いて理解するのみでなく、協働的な課題解決の時間を設定し、複数の生徒でコミュニケーションを図ることで、「分かったつもりになっていた」ということに気付かせたい。また、それをきっかけにして数学を学ぶ楽しさにつなげていきたい。

## 2 取組み

| 科目  | 学年   | 取組みの具体的内容  |
|-----|------|--|
| 数学  | 1 学年 | ジグソー法を用いて協働的に課題を解決させる指導を行った。その際、グループ毎にホワイトボードに考えをまとめさせ、最終的に他のグループの前で発表させた。また、ICTを用いることで動的なイメージ持たせるように工夫をした。                      |
| 数学A | 1 学年 | 樹形図を用いて場合の数を数え上げる指導を行った。ワークシートでは例題の後に類題の演習問題を配置し、学習内容をすぐに確認できるように工夫をした。また、ICELグループリックを用いて「数学化する力」「コミュニケーション能力」の2観点について自己評価を行わせた。 |
| 数学  | 2 学年 | 三角関数を用いて、2直線のなす角を求めることができるようになることを目標に授業を行った。課題解決の際、協働的に課題を解決する時間を設けることで、既習事項である正接の加法定理を活用できることに自分たちで気づくことができた。                   |
| 数学  | 1 学年 | 三角比の値からその角度を求めることができるようになることを目標に授業を行った。三角比の値が負の数のときに、最初は戸惑う生徒がいたが、2人組を作り、協力して解くようにさせることによって、内容理解し、その定着率があがったと生徒は感じていた。           |

## 3 検証

1 学年では、定期考査に説明する問題を意図して出題してきた。学年末考査前に行った表現力を測るテストでは、2 題について「1 . 正しい選択肢を選び正しく説明」「2 . 正しい選択肢を選び不十分な説明」「3 . 正しい選択肢を選び空欄」「4 . 誤った選択肢を選ぶ」の4 つパターンの割合を数えた。その結果、問題1 について、1 : 43%、2 : 23%、3 : 7%、4 : 27%、問題2 について、1 : 25%、

2 : 34% , 3 : 10% , 4 : 31%であった。どちらの問題においても、正しい選択肢を選んで説明しようとしている1 , 2の生徒が過半数であることは成果である。今後は正しく説明できる1の生徒が増加するように指導していきたい。

2 学年では、広島県高等学校学力調査の説明問題2題について、昨年度と今年度の正答率について比較した。数学的な見方を問う問題について、19.3%から30.5%に、2次関数を用いた説明問題では4.6%から8.5%に正答率が増加している。昨年度は、説明に必要な条件を全て書いていない解答が多くみられたが、今年度はその点が改善されている傾向が見られた。

#### 4 今後の課題

数学学習を通して思考力・判断力・表現力を身に付けさせるには、協働的な学びの中で理由を説明する活動が有効であると考えられる。しかし、単元によって協働的な活動を設定することが難しい現状がある。

さらに、生徒の基礎学力が身につけていることを前提にした課題解決であるがゆえに、習熟別クラスでは実施が難しいこともある。本年度、1 学年で習熟の枠をなくし、普通科生徒全員で授業を行う機会を設けた。そこでは「教え合い」が多く見られた。

協働的な課題解決は実施する単元を焦点化し、授業形態を工夫していく必要がある。本年度を踏まえ、来年度はさらなる挑戦をし、検証をしていきたい。

1 教科仮説

「各単元のまとめの場面において、学習内容を他者に説明する活動を取り入れることによって、生徒は、他者を通して自分の表現を客観的に見つめ直すことができ、科学的に表現する力を高めることができるであろう。」

仮説設定の理由

「科学的に表現する力を高める」ためには、学習内容を理解し、自分の言葉でまとめる必要がある。この学習活動を通して、知識・技能ばかりでなく、他者への説明内容を考えることにより、自分自身の理解の度合いを再認識することができ、それをきっかけにして科学的な興味・関心や自然観の育成につなげていきたい。

2 取組み

| 科目   | 学年   | 取組みの具体的内容  |
|------|------|--|
| 物理基礎 | 2 学年 | 3つのテーマを提示しグループで話し合わせ、実験方法の立案から実験結果のまとめまで行わせ、実験結果から導き出した内容を発表させ、全体で共有させるようにした。  |
| 生物基礎 | 2 学年 | マインドマッピングの手法を用いて、学んだことをまとめさせ、班のメンバーと共有し、学習内容を再確認させるようにした。                      |
| 化学演習 | 3 学年 | 実験の内容を各自でまとめさせ、発表させるという取組を行った。この際、生徒が自分の言葉を用いて説明させるようにし、実験における各自の工夫も書かせるようにした。 |

3 検証

- ・生徒の発表では、各グループが協力し、自分だけでなくお互いのコミュニケーションを深めながら、学習内容をより深化する役目を果たした。また、学習内容を自分でまとめるということで、生徒が理解からより深い内容に興味を持つことへと繋がっている。実際、アンケートでは、4月よりも7割強の生徒が、科学的な内容に興味・関心を持つようになったと答えている。また、生徒の方から、科学的な記事やニュースを見たと言及する生徒もいた。
- ・定期考査の記述問題は、各科目で工夫し自分の考え（推測や実験結果から考察をする等）を記入する内容や授業の様子を会話文形式にした問題を作成し、生徒の科学的な表現力を試すようにした。その結果、1学期の考査と比較すると、3学期に実施した考査の方が、生徒の無答の割合が下がった。生徒への学習内容の理解が進んだ結果だと思われる。ただ内容に関しては、問題の主旨とは離れている内容もあり、今後の課題だと思われる。

#### 4 今後の課題

- ・学習活動を通して科学的な思考力・判断力・表現力を身に付けさせるには、協働的な学びの中で実験や実習を通して、その結果から考察し、どうしてそういう結果になったかを説明する活動が有効であると考えます。しかし、時間的な制約や実験道具・器具・薬品等の不備により、協働的な活動を設定することが難しい内容がある。また、学習内容によっては、実験や実習の設定が困難な場合もある。設定が困難な単元では、創意工夫をしながら違った角度から学習内容を考え、科学的な表現力を高める工夫をする必要がある。
- ・各科目で取り組む方法が大きく異なることも多く、「理科」という枠組みの中で共有できる内容を「科」として互いに連携しながら考えていくことが大切である。いかに生徒に基礎学力を身につけさせ、協働的な学びの中で課題解決ができる力を育成できるように、モデルの開発やICT機器の活用等を工夫していく必要がある。

1 教科仮説

「運動技能の習得場面において、基本的な動きを生徒同士で指摘し合うことによって、自分自身の動きを客観的に見る力を養うことができるであろう」

仮説設定の理由

自分自身の動きは、自分の思いと大きくかけ離れている場合も多く、客観的に観察することが求められる。しかしながら、VTR等の機器を常時セッティングすることは困難なため、他者の意見や指摘は重要な情報となる。指摘する側もされる側も一定程度の知識は必要であるが、まずは自分が感じたことを指摘できるよう取組んでいきたい。

2 取組み

| 科目      | 学年 | 取組みの具体的内容   |
|---------|----|---|
| 体育（柔道）  | 1年 | 柔道における様々な動きを準備運動の中で体験するとともに、受け身の重要性を理解して正確に受け身をとることができるようになることを目標に展開した。また、二人組で畳（マット）を叩くタイミングや叩き方に注目しながら観察し、良い点と悪い点を指摘し合うことにより、自分の動きを客観的に認識できる場面を設定した。         |
| 体育（ダンス） | 1年 | グループ発表で互いの良い点に注目することにより、ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、共感し高めあう態度を身に付けることを目標にした。体育祭応援団をイメージすることで、どのようなダンスを作るのかを明確にし、見てほしいポイントのPR・良い評価のフィードバックで、自身の動きを振り返り、意欲の向上に繋がるよう工夫した。 |

3 検証

お互いの動きを確認する場面では良い点悪い点の両方を指摘し合う場面が見られ、そのことにより、自分の動きについてイメージできた部分があったのではないかと思われる。その後の練習において、指摘された内容を考えながら行った生徒は18名中13名であった。（挙手による）振り返りシートで、毎時間の目標の確認と振り返りを行った。取り組み姿勢について殆どの生徒が高い評価であった。また更に工夫を重ねてよい作品を作りたいという意欲的な感想が多くみられた。

4 今後の課題

相手によって見方が変わることも想定されるので、相手を変えながら数回行うことで新たな発見が出てくるような場面を設定していきたい。  
様々な動きを紹介し、基礎練習を繰り返すことにより、よりレベルの高い作品作りに挑戦させたい。

1 教科仮説

「作品や演奏による表現，創作や鑑賞の場面において，順序選択学習や課題選択学習を通して，道具や素材，教材を選択することによって，自分の発想や意図を捉えて，学習成果を発表することが出来るであろう。」

仮説設定の理由

平成27年度の学校の研究テーマが「他者と共に主体的な学びに繋げるスキルの構築」であることを鑑み，心豊かにする魅力のある題材を通して，主体的に材料や用具の特性や効果について理解し，技術や技法等を学び，基礎となる技能の定着を図りながら，それらを活用する力を付けさせることをねらいとした。また，作品や表現の発表及び鑑賞の場面では，根拠をもって，お互いに批評し合う活動を取り入れ，言語活動の充実を図り，表現や作品の背景，心情，意図などを感じ取り深めることを重視した。

2 取組み

| 科目 | 学年   | 取組みの具体的内容  |
|----|------|--|
| 音楽 | 2 学年 | <p>ハンドベルの演奏を7人・8人の2班に分かれて行った。「きらきら星」の3重奏で主要三和音のハーモニーの和声進行を美しく保持しながら，旋律ラインを繋げ，音の質やバランスを整える工夫や，アンサンブルの技能を高めた。今回は，板書で生徒の活動内容を明確にする工夫を行った。 思い出す（振り返り）・英語音名の確認 知識・（主音，テンポ，技法）を身に付けさせる グループ練習（自働的・協力的活動）演奏発表（相互理解） 感想（発言）振り返り（学習の記録）これらの項目を提示によって生徒が思考する，発言する，練習する，聴き合う，記録するなど，場面ごとに適切な活動ができた。</p> |
| 美術 | 1 学年 | <p>生徒用資料として，色々な物を持った手のデッサンの中から好きなポーズを4点選び模写をさせた。模写をすることで手の構造が把握でき，制作したい手のポーズを決めることができた。加工がしやすい軽量粘土を使用し，塑像の技法で制作をさせた。制作過程で手を止め，何度も角度を変えて観察しながら制作するよう助言をした。粘土を付けるだけでなく，サンドペーパーやカッターナイフで削りながら，納得のいく形に近づける指導に努めた。手に持たせる物は，生徒の意見を聞きながら助言をし，それぞれの発想や個性を生かした作品になるよう指導した。</p>                        |



### 3 検証

音楽 では、生徒の特性、興味関心等を考慮して小アンサンブルの教材を準備し、これまでの音楽理論の知識や体験を活かし、グループで協力して演奏発表をすることができた。また、生徒各自が、記譜をそのまま再現するのではなく、表現したい音楽のイメージを膨らませながら、演奏の工夫にも取り組んだ。教材の取り扱い方法（観察）、筆記小テスト、自己評価（授業振り返り）ワークシートなどの記述から生徒の意欲の向上を把握することができた。

美術 では、立体造形による表現の基礎的な能力を養うために、「何かを持っている、何かを載せている自分の手」をテーマにした塑像による彫刻制作に取り組ませた。制作過程で何度もいろいろな角度から観察して制作させたことで、普段見慣れた手の造形の魅力や不思議さと、それを立体造形にする表現力の難しさに気付かせた。自己評価カードの記述から、立体造形による表現力が身についたかを把握することができた。

### 4 今後の課題

今後の課題として、生徒が主体的に、効果的な表現方法を選択・活用し、創意工夫をして主題を追究して行ける学習場面を設定していきたい。また、鑑賞レポートを批評し合う場面では、多様な感性を理解し、他者の考えを尊重しつつ多角的に考察を深めるにはどのような工夫が必要か検討していきたい。

## 1 教科仮説

「言語活動において、ペアワークやグループワークを多く採り入れることによって、生徒の英語に対する学習意欲が高まるであろう。」

### 仮説設定の理由

学習形態としてペアやグループの形態を採用し、生徒が他の生徒の考えやパフォーマンスに触れる機会を増やすことによって生徒同士がお互いの学習意欲を高め合い、ひいては「読む」「聞く」「話す」「書く」といった所謂四技能の習熟度も高めることにつながるのではないかと考えた。

## 2 取組み

| 科目          | 学年   | 取組みの具体的内容  |
|-------------|------|--|
| 基礎英語        | 1 学年 | ワークシートを使って各単元の学習内容のポイントを理解させた後に、音読・暗唱練習用のプリントを使ってペアで音読・暗唱させ、学習内容の定着を図った。               |
| コミュニケーション英語 | 1 学年 | 教科書本文の内容理解の後に、ペアによる音読や暗唱の練習時間を多く確保した。また、学習した言語材料を用いてのコミュニケーション活動をグループ活動の形態で実施した。       |
| コミュニケーション英語 | 2 学年 | 教科書本文の内容理解の後に、ペアによる音読活動の時間を多く確保した。生徒の集中力が持続するように活動の方法に変化を付けたり、活動の難易度を徐々に高めるように工夫したりした。 |
| コミュニケーション英語 | 3 学年 | 教科書本文の内容理解の後、本文の暗唱をペアワークの形態で行わせたり、本文の内容に関する自分の考えを英語でまとめ、グループ内で発表し合ったりさせた。              |

## 3 検証

### 基礎英語

学習した言語形式が使われている英文をペア等で音読・暗唱練習させることにより、学習内容の定着を図ることはできたと思われる。

### コミュニケーション英語

個別の練習では活動に消極的な生徒たちも、ペア活動においては、発音など不明な箇所をパートナーに確認することによって学習内容の理解が深まったりパフォーマンスの質が向上したりしていた。グループでのコミュニケーション活動では、課題の内容によっては多くの生徒がグループ内で協力し合いながら英語の発表原稿作りや発表の練習に意欲的に取り組んでいた。

### コミュニケーション英語

ペア活動を採り入れることによって生徒に責任感が生まれ、英語が得意な生徒が苦手な生徒にアドバイスをするなど、より主体的に活動に取り組む姿が見られた。

## コミュニケーション英語

暗唱活動や題材に関する意見発表の活動にペアワークやグループワークを採り入れることによって、生徒相互の「学び合い」の機会が増加し、機械的な音読暗唱活動ではなく、題材内容を深く理解した上で教科書本文を暗唱したり意見発表をすることができた。

### 自己評価（アンケート）より

本校では、「学びの変革」の一環として今年度の授業研究テーマとして「生徒が主体的に学ぶための授業の創造」を掲げ、「教科で身に付けさせたいスキル」として「思考力・判断力・表現力」（以下スキルA）、「情報収集・活用能力」（以下スキルB）、「コミュニケーション能力」（以下スキルC）、「課題発見・解決能力」（以下スキルD）の4つのスキルを設定した。外国語科としても、ペアワークとグループワークを採り入れることによって生徒の学習意欲を高め、これら4つのスキルの習得に繋げようという狙いで取り組みを行い、取り組みの成果を年度末に生徒の自己評価（アンケート）という形で検証した。1・2学年各教科履修生徒（のべ305名）を対象に調査した結果、各スキルの習得に関して、「大変当てはまる」と「まあ当てはまる」を合わせた肯定的な回答の割合が、スキルAについては85.6%（261名）、スキルBについては84.6%（同258名）、スキルCについては84.9%（259名）、スキルDについては82.3%（251名）を占めた。今年度初めて調査したということから、これらの回答結果に関して評価を下すことは簡単ではないが、かなり高い割合ではないかという印象であった。外国語科として採り入れたペアワークやグループワークが生徒の学習意欲を高め、その結果として様々なスキルの習得につながったのではないかと考えられた。

## 4 今後の課題

### 基礎英語

基礎英語という科目の特性として、知識の伝達が授業の多くを占めざるを得ず、生徒の言語活動の場面を多くすることは容易ではないが、今後はワークシートの中身を工夫するなどしてもっとペアワーク等の生徒主体の言語活動を行う時間を確保していく必要がある。

### コミュニケーション英語

現状ではペア活動は音読等のドリル練習がほとんどであるが、今後は更に一歩進め、生徒同士が「読む」「聞く」「話す」「書く」4技能を駆使しつつ、お互いが実際に意思のやりとりを行えるような活動を仕組むことによって、より生徒の学習意欲を高めていく必要がある。

### コミュニケーション英語

生徒の中には、若干ではあるがペアによる活動に抵抗感を示す者もいた。「自分のペースでやりたいから」というのが主な理由であった。今年度は主に活動内容が音読に限られていたことも一因であると考えられる。今後、より活動の中身を検討していく必要がある。

### コミュニケーション英語

単なる音声としての記憶の再生ではなく、同時に内容理解をしながら、考えながらのリプロダクションを目指していきたい。

### 全体として

今年度はペアやグループといった学習形態に着目し、学習形態の多様化が生徒の学習意欲向上に及ぼす影響を考察し、一定の効果を実感できた。今後は学習形態の工夫のみならず、授業中の言語活動におけるパフォーマンス課題を、現状で多く採用している機械的な中身の物からより発

展的で創造的な内容にするなど、課題の中身の濃さで生徒の学習意欲を高める方策を模索していく必要もあると考える。それによって多様なスキルの習得への道を開くことが可能になると同時に、本校がめざす教科指導の三段階（「表現」「活用と協働」「探究」）の進展も図ることができると思う。

平成28年度 授業研究のまとめ（家庭・福祉・看護科）

1 教科仮説

「課題提示学習において知識技術等を活用させる工夫を行うと、生徒が調べ学習等を行い、自己の課題を発見し課題の解決方法に気づき、社会で実践できる力がつくであろう。」

仮説設定の理由

課題提示学習を行い、意図的に知識技術等を活用させる事を授業に取り入れて、適切な語句を使用し表現させたり、実習・演習・事例学習等を活用して段階的に既習の事や調べたことを発展させたり、グループワークや実技テスト等で技術や表現やコミュニケーションを使用し能力が向上するように誘導し、自己を振り返り、考える力をつける。それにより、自己の課題を発見し課題の解決に導き、実習やボランティアや発表の場で実践する力をつける事ができる。

2 取組み

| 科目     | 学年（類型）      | 取組みの具体的内容   |
|--------|-------------|---|
|        |             | 授業の場面、取組みの具体的内容（発問、教材等）、期待される生徒の行動や状況   |
| 生活支援技術 | 3年（介護福祉士類型） | 生徒が「障害の理解（腎障害・呼吸器障害）」の問題を考え、それぞれを回答後解説することを提示した。生徒間での解答解説への質疑・意見交換等により、学習の理解を深め、自分の課題を発見し解決することができる。生徒は意欲的に調べ意見交換や理論的思考をし、資格取得への積極的学習となった。  |
| 遊びと保育  | 3年（総合福祉類型）  | 保育所実習での体験をもとに製作した作品（サイコロパズル）の発表をし、その評価をグループで行った。他科目（コミュ技や実務）で学んだ力を発揮し、統合的に学習に取り組んでいることを自覚させながら、作品について他者と意見を交換しあうことで、知識の再確認やコミュニケーション力の実践に繋がった。                                      |
| 成人看護   | 3年（総合福祉類型）  | 看護に関わる本を読み書評をバトル形式で発表させた。「他者に読んでみたいと思わせるにはどんな工夫が必要か」という発問とし、表現することのについて考えさせたかったが、準備が不十分で積極的に取り組むことができない生徒がいた。本の選択や要約する段階での細かい指導が必要だった。事後指導で、自己の振り返りを行うことで個人の課題を明確に自覚することができた。       |
| 介護福祉基礎 | 2年（介護福祉士類型） | 生徒が「終末期（日本における安楽死の導入への賛否）」についてディベート的手法を用いて討論を行った。討論を通じて、生徒は討論に向けて主体的に調べ、終末期の方の心理やそれを支える家族の葛藤について幅広い視点から、終末期ケアにおける倫理について深く学ぶことができた。介護の現場で必ず向き合う事例として、重く受け止め、介護福祉士の重要性を深く認識できた学習となった。 |
| 介護福祉基礎 | 1年          | 身体拘束をされている高齢者の写真を取り上げ高齢者の気持ちを考えさせた。その後、身体拘束はなぜいけないのかペアワークで考えさせ、互いに自分の意見を共有させ発表させた。身体拘束を行うことでどのような弊害が考えられるかなど、自分たちで積極的に考えるグループも見られ、主体的な学びへとつながった。                                    |

|             |    |   |
|-------------|----|---|
| コミュニケーション技術 | 1年 | 聴覚障害について、既習の知識を基に、根拠を調べながらコミュニケーション方法を考えた。ペアで行い、既習の知識をまとめ考えを共有することで、知識の活用方法がわかる。更に、聴覚障害がある人の介護時の対応を考えさせることで、互いの考えを発展させ課題の解決へと繋げる学習となった。               |
| 生活支援技術      | 1年 | 事前に課題提示し、排泄用具や排泄用品について調べさせた。調べたことをまとめ、リーフレットを作成し発表させることにより、それぞれの学びが共有でき、意欲的に学習活動を行うことができた。また、発表を通して、排泄介助の方法と用具を利用者の状況に合わせて選択する必要性について考えるよいきっかけにつながった。 |

### 3 検証

観察評価・記録物の評価・生徒の自己・他者評価で行う

- ・基礎知識の活用や調べ学習により、課題発見・解決への取り組みをしようとする。(BD①②④)
- ・適切な態度や言葉づかいで、自分の気持ちや考えを表現できる。(AC③)
- ・発表する態度・聞く態度・指導を受ける態度が気持ちよくでき、自律しようとする。(C②③④)
- ・介護実習やボランティアや地域交流で、能力に合わせた適切な実践ができる。(ABCD①②③④)

課題提示学習を行い、基礎知識の活用や調べ学習、グループワーク、実習・演習・事例学習等を意欲的に行うよう工夫し、自己の課題を発見し課題の解決に導いた。

科目「コミュニケーション技術」「生活支援技術」は、課題提示した上で実技テストを行い単位認定している。「遊びと保育」「介護実習」「介護過程」「成人看護」は現場への実習のために校内で事前事後指導を行い、社会に必要な様々な実践力をつけ現場やボランティア等でも良い評価を頂いた。

ワークシートや記録等は必ず提出させているが、記録指導（特にできていない生徒は個別指導による再提出をさせる）により学年が上がるにつれ徐々に適切な記録ができるようになっていく。

様々な科目の授業や実習終了後に発表の場をもうけ、基礎知識の活用や調べ学習、グループワークで取り組ませ、スキル（課題発見・解決力、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力）を向上させた。3年生まで実践すると大きな舞台でもきちんと発表できるようになった。ほとんどの生徒が適切な言葉づかいで自分の気持ちや考えを表現でき、発表する態度・聞く態度でも相手や目的場面に合わせた適切な態度ができ、自分の気持ちや他者の意見を整理し記録することができるようになった。

これらの取り組みにより、学年が上がるにつれて、知識、スキル（課題発見・解決力、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力）、意欲・態度（リーダーシップ、責任感、主体性・積極性・協調性、ストレスコントロール）、価値観・倫理観（自信、共感力、思いやり）、実践力が身につけてきたと評価できる。

生徒の入学時と比較して、知識、スキル（課題発見・解決力、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力）、意欲・態度（リーダーシップ、責任感、主体性・積極性・協調性、ストレスコントロール）、価値観・倫理観（自信、共感力、思いやり）、実践力について、力がついたかを意識調査を行った。5：格段に向上した 4：さらに向上した 3：当てはまる 2：まあまあ当てはまる 1：余りあてはまらない 0：全く当てはまらない -1：さらに低下した -2：格段に低下した の尺度で評価した。

3年生平均は、知識**3.8**、スキル**3.2**、意欲・態度**3.2**、価値観・倫理観**3.4**、実践力**3.3**である。リーダーシップ、責任感が**2.9**だったが、コミュニケーション能力と主体性・積極性・協調性は**3.5**、共感力と思いやりは**3.7**と高かった。ほとんどの項目に**5**をつけていた生徒が**7**人いた一方、ほとんど**2**以下をつけていた生徒が**2**人いた。

生徒が自己評価したように卒業前には、適切な態度や言葉づかいで自分の気持ちや考えを表現できる。発表する態度・聞く態度・指導を受ける態度が気持ちよくでき自律しようとする。介護実習やボランティアや地域交流で能力に合わせた適切な実践ができる力はある。福祉の基礎知識は理解しているが、知識の活用や調べ学習により課題発見・解決への取り組みを実践する力は弱く、このことができリーダーとなれる生徒は数人である。

#### 4 今後の課題

生徒に各授業で単元や本時の課題を明確にし、意図的に知識技術等を活用させる事を授業に取り入れた。既習の知識技術の定着が十分にできていることで活用の程度が違ふ。授業規律を確立し、学習の継続により定着させる指導が必要である。授業で適切な語句を使用し表現させたり、実習・演習・事例学習等を活用して段階的に発展させ、くり返し学習させることも必要である。

既習事項を復習し、疑問を調べることを自主的・意欲的に行うように促すと、**自己の課題を発見し課題の解決方法に気づく事ができる。この知的好奇心を刺激する課題提示を効果的に行えるように授業改善に取り組みたい。**

グループワークや実技テスト等で技術や表現やコミュニケーションを使用しスキルが向上するように誘導したい。自己の振り返りや思考力と表現力をつけるため、記録指導も重要である。持続的に、段階的に、個別性へも対応しながら指導する教員の力量をつけることも重要である。

自己の課題を発見する支援を行い解決できるよう計画実行できるまで、個別に対応し少しずつでも生徒の成長を促したい。

# 第2章

## 研究報告の部



## 平成28年度生徒指導実践指定校としての取り組み

### 1 前年度の状況を踏まえた数量的な分析について

|              | 暴力行為      | いじめ         | 特別な指導     | 長期欠席      | 中途退学      |
|--------------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|
|              | 件数<br>(件) | 認知件数<br>(件) | 件数<br>(件) | 人数<br>(人) | 人数<br>(人) |
| H23年度(年間)    | 5         | 2           | 83        | 7         | 18        |
| H23年度(4~12月) | 4         | 2           | 73        | 4         | 3         |
| H24年度(4~12月) | 3         | 3           | 55        | 3         | 1         |
| H25年度(4~12月) | 3         | 0           | 56        | 10        | 4         |
| H26年度(4~12月) | 3         | 0           | 47        | 5         | 6         |
| H27年度(4~12月) | 0         | 1           | 39        | 4         | 5         |
| H28年度(4~12月) | 0         | 0           | 20        | 6         | 4         |

### 2 取り組み内容

#### (1) 生徒指導体制の確立について

生徒指導規定を根拠とした、組織的な生徒指導体制を確立している。今年度は特にマニュアルの徹底化を図った。4月に規程に基づいたマニュアルを配布し、全ての教職員がブレのない生徒指導を実践できるように取り組んだ。その結果、指導に対する不信感、不満などでのトラブルは起こらなかった。また、全教職員の協力を得て、個に応じた弾力的な生徒指導も行い、組織的に綿密な指導を行っているため、問題行動が減少した。更には、問題行動を起こしてしまった生徒に対しては、振り返りの時間を多く設け、再発の防止に努めた。

#### (2) 中高連携の推進について

入学前に近隣の出身中学校を訪問し、個々の生徒の家庭状況などの実態を把握している。また、入学後であっても生徒理解のために、関係を深めその生徒に合った、より良い指導を模索した。

#### (3) 教育相談体制の確立について

月一回のスクールカウンセラーの活用を促した。  
特別支援教育推進委員会を中心に、発達障害等で支援が必要な生徒の個別の指導計画を作成し、支援を行ってきた。全教職員に学年会や職員会議を通じて徹底し、指導方法を一貫させた。支援が必要な生徒の成長過程を見極めながら、今後も個に応じた支援を行っていきたい。

#### (4) 全校集会での考える指導の徹底について

授業規律が確保されていない。廊下のスイッチの破損。交通ルールの遵守やマナーが守られていない、等があった場合には速やかに全校集会を開催した。昨年度から「ダメ」を連呼する指導から、考えて何をすれば「良い」と言われるのかを自らが実践できる生徒育成につなげた。

#### (5) 学習指導の充実について

基礎的な学習能力を定着させるために、進路指導部が中心となり補習や「プリントビューフェ」と呼ばれる、プリントによる自主学習、全員模試など新しい取り組みを行った。また、「アクティブラーニング」の研修に積極的に参加し、参加して楽しい授業、解る授業を展開できるように教師のスキルアップに努めた。

(6) 生徒の自主的，主体的な取組の活性化

「黒高レンジャー」の定着により挨拶，美化，花や地域でのボランティア，掲示，国旗校旗の掲揚など様々な分野での仕事を生徒が主体となり，企画，運営，出来るようになった。学校行事においても，生徒主体での行動が増えてきており，外部評価もかなり高まった。

3 課 題

(1) 転退学者について

本校へ入学する生徒には，本意入学者も不本意入学者も居るのが実態である。特に不本意入学した生徒には，高校で行う学習内容や規則といったものを，受け入れる姿勢に乏しい。また，そのような姿勢で臨む学校生活では，友達との心の行き違いや教師との行き違いが生じる可能性が高い。本意で入学した生徒でも学力の伸び悩みや，高校生活と自身の考えや希望がかけ離れていて学校から足が遠のくケースもある。いずれにしても，進路目標を明確化させ，未来への展望を抱かせる指導を継続することが一番重要であると考え。

(2) 授業規律から質の確保への変換

全ての授業においてほぼ規律が守られ静かで安全な学びの場が確保できているようになったと感じる。「実践指定校でこの現状になったから良し。」ではなく，ここから，生徒の「学びの意識」を向上させるような工夫を凝らし，生涯にわたって学ぶ姿勢を育成しなくてはならない。

(3) 生徒の自己肯定感について

多くの生徒に対して言えることだが，成功体験が少ない。自分に対しての自信がなく，努力をすることではなく，そのことが失敗し自身が傷つくことを恐れている。そのため，努力をした後に得られる，達成感や満足感を得ることは出来ない。

生徒の特別活動は，成功体験に近づく機会が多いものを選択し，多くの生徒が自己肯定感に結び付けるような体験をさせたい。

4 課題と育てたい生徒像から来年度の取り組みを考える。

本校の掲げる育てたい生徒像は，「志と目標を高く持ち，主体的に学び，自ら行動する生徒」である。

自ら行動する生徒の育成は，特に取り組み(6)に示したように，かなりの成果が得られていると実感する。本校は近年から振り返ると非常に落ち着いたという評価を多くの関係者からいただいている。自ら学ぶ生徒の育成が実践段階に入り，授業の内容を充実させる取り組みを行い，補習等も充実させた。その結果，本年度国公立にも合格者を輩出するまでになった。

そして，就職者の内定先も多様化され，より希望に沿ったものへと変化していった。この結果を継続させるためにも，アクティブラーニングの研究や補習のあり方などを考え，生徒の学ぶ意欲をより掻き立てていけるように教師も授業力の向上に努めなくてはならない。

また，問題行動を起こしてしまった生徒への対応も現状の指導方法を再考し，各生徒に応じた更生プログラムを考え，問題行動の繰り返しが起こらないような工夫が必要である。これは，問題行動だけでなく，遅刻を繰り返す生徒や理由のない欠席を繰り返す生徒への指導にも同様のことが言える。大きな指導の変化をすることは難しいが，マイナーチェンジを重ね，指導者数や遅刻者数の減少を促していかななくてはならない。

学校が落ち着き，次のステップを模索する次年度はある意味で，将来の黒瀬高校のあり方の核を考える年度になるであろう。各分掌が連携を密にしていくことがより重要である。

## 海外姉妹校との交流（本校生徒による姉妹校訪問）

### （１）はじめに

平成25年11月に本校は福祉の国スウェーデン南部ボロース市のアルマス高校（Almas Gymnasiet）と姉妹校提携を行い、翌平成26年に隔年の生徒相互訪問の取り組みをスタートさせました。初年度は本校女子生徒3名がアルマス高校を訪問、翌年にはアルマス高校生徒2名が本校を訪問し、本校や、長年スウェーデンと福祉分野での交流を続けている「社会福祉法人あと会」での研修・交流を行いました。今年度は本校3年生の川崎まりえさんと2年生の五島彩実さんの2名が9月10～23日の2週間、ボロースの地を訪れ、現地でアルマスの生徒さん宅や、アルマス高校で長く教員として勤務され、姉妹校提携当初から本校との交流窓口をされているラース先生宅にホームステイをしながら姉妹校での交流を行いました。



### （２）アルマス高校にて

アルマス高校訪問初日にはエニコ校長先生をはじめ多くの教職員や生徒さん方が歓迎集会を開いてくださりました。エニコ校長による歓迎のお言葉の後、3年生の川崎さんが英語で堂々とスピーチを行い、2人で楽器演奏も披露しました。

滞在期間中は、福祉・保育・看護・理美容・フラワーアレンジ・調理・体育などのアルマスの様々な変化に富んだ授業に参加させて頂きました。異文化理解をテーマとした授業では、異文化交流に関する討論に参加したり、日本文化の紹介として折り紙やけん玉を披露しました。日本の生徒2人が器用に折り紙を折る様子に、皆さん興味津々の様子でした。逆に我々日本人にとっては、アルマスでの授業のほとんどが所謂講義形式でなく演習形式で行われ、生徒さん方一人ひとりが主体的に授業に参加する様子が、大変印象に残りました。まさしく昨今日本でも話題の「アクティブラーニング」を重視した授業であると感じ入りました。





### (3) 課外活動

放課後にはラース先生が用意して下さった様々なプログラムに参加させて頂きました。森林国という特徴を活かしたバイオマス資源を使った環境に優しい発電施設や、世界中からの見学者が絶えないという最先端の福祉施設、都市における野生動物の保護の在り方を学ぶツアーなどを見学させてもらいました。どれも大変印象深いものでした。



### (4) ホームステイ先にて

週末にはホストファミリーや友人と様々な活動を楽しみました。ボロースでは、他の多くのスウェーデンの都市と同じく住宅地のすぐそばに豊かな森林や公園、湖などが広がり、身近に自然を感じることができます。最初のホームステイ先では乗馬を体験したり、ラース先生宅では、野外活動マスターである先生の御指南により、高さ数十メートルからロープをつたって滑り降りるスリル満点の「ジップライン」をはじめ様々な野外活動を満喫しました。又、サッカーとバスケの地元のプロチームの試合も観戦したり、前年度に黒高を訪問してくれたキムさんとエバさんに再開する機会も得ることができました。二人とも黒高への訪問を懐かしく感じておられました。キムさんお気に入りの寿司屋さんでランチを楽しみました。現地でもできた友人とともにイエテボリの大遊園地「リセベリ」も訪ねました。



### (5) おわりに

今回の訪問は、参加した2人にとって大変印象深いものでありました。現地ではラース先生をはじめ、みなさんに本当に温かく接して頂き、スウェーデンという国やスウェーデンの人々が大好きになって帰国しました。また、スウェーデンの大自然や充実した福祉や教育などの制度を、実際に身をもって体験できたことは大変意義深いことであったと思います。今後の自分たちの人生に今回の経験を活かしていただけたらと思います。今後も両校の交流の輪が広がり続けることを望みます。



## あとがきにかえて

学習指導要領は「各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と述べています。

今年度、本校では「生徒が主体的に学ぶための授業の創造」として、各教科で仮説を設定し、さまざまな活動を授業に取り入れ、自発的学習により自己を開発し、進路希望を実現する生徒を育成するために、研修・研究を続けてきました。この紀要が教育活動の参考になれば幸いです。

最後に、多忙な中、原稿を執筆くださった先生方、本当にありがとうございました。総務部一同、心からの敬意と感謝を表したいと思います。

### 群翔 第28号

発行 平成29年3月31日  
編集者 総務部  
発行者 広島県立黒瀬高等学校  
〒739-2622  
広島県東広島市黒瀬町乃美尾1番地  
TEL (0823) 82-2525 FAX (0823)82-2527  
URL <http://www.kurose-h.hiroshima-c.ed.jp>